

An open, glowing treasure chest is the central focus, set against a dark, starry space background. The chest is made of dark, weathered metal and is open, revealing a bright, golden light emanating from within. The light creates a shimmering, ethereal atmosphere. The chest is positioned on a dark, textured surface, possibly a wooden plank or a similar material. The overall scene is illuminated by the light from the chest, creating a sense of mystery and discovery.

真理の宝 (パート 1)
わたしたちの
創造主と論じる

目次

1. 今日人類への神のみ言葉	5
2. 力強い神のみ言葉	10
3. 火のへび	15
4. わがともしびに油を与えたまえ	20
5. 旧約における福音	26
6. 永遠の神の律法	31
7. 福音の奥義	36
8. このお方の十字架にくぎづけられる	41
9. もしわたしたちが告白するならば	47
10. 真理によって彼らを聖別して下さい	52
11. 古い契約	57
12. さあ、われわれは互に論じよう	62

セブンスデーアドベンチスト改革運動世界総会安息日学校部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-0240, U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.98, No.4

編集&発行:
S D A改革運動日本ミッション

〒368-0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607-1

TEL : (0494) 22-0465

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
sdarm.shomaru@gmail.com

イラスト : Adobe Stock on the front cover; Map Resources on pp. 4, 46, 68.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

まえがき

全能なるお方がこの地球をつくり、6000年以上にわたり支えてこられたのは、実に驚くべきすばらしい創造です。そしてこのお方の壮大な創造を冠する最高峰はご自分のかたちに創造された人類でした！これはこの惑星に住み、それを支配するようにと計画された種族でした。知性と思考力が人類に与えられ、この種族一人類一は、この特権が委ねられてきましたが、すべてにまさり、地上でただ永遠にわたって偉大な創造主の喜ばしいみ前にいつまでも生きる機会が提供されていました。

他の特権や責任と同様、これには条件が伴っていました。正しく憐れみ深い宇宙の創造主は、明白にわたしたちの前にこれらの条件を並べ、ご自分と論じるようにと招いておられます。こうしてわたしたちがこのお方の契約の備えを理解することができるためです。

そこで、これから3か月の間、全世界の安息日学校の生徒たちは重要な主題「わたしたちの創造主と論じる」を学びます。これは「真理の宝」と題された一年間のシリーズの第一部で、永遠のために備えられた甚大な価値をになった真理のすばらしい宝石について重要不可欠な理解を提供しています。救われたい者はみな、神を信じる深い本物の信仰と、地上歴史の最終時代の厳しい試練でさえ耐える勝利に満ちたクリスチャン経験を持たなければなりません。

「知的被造物に述べられた宗教は、その真正さの正当な証拠をうみだす。なぜなら、心と品性に顕著な結果があらわれるからである。キリストの恵みは彼らの日々のふるまいにあらわされるようになる。わたしたちは聖化されたと公言する人々に間違いなく訊ねることができる。あなたの生活に御霊の実はあらわれているだろうか？あなたはキリストの柔和とへりくだりを表しているであろうか。またこのお方の無私の生涯という型にしたがって自分の生活を形づくりつつ、日々キリストの学校で学んでいる事実をあらわしているであろうか？

わたしたちのうちだれでも天の神とのつながりについて持つことができる最高の証拠は、このお方の戒めを守ることである。キリストを信じる信仰の最上の証明は自己に信頼せず、神により頼むことである。わたしたちがキリストのうちに宿っている唯一の信頼できる証明は、このお方のみかたちを反映することである。わたしたちがこうする限り、真理を通して聖化されている証拠を示すのである。なぜなら、真理がわたしたちの日常生活に具現化されるからである。」(あなたは力を受けるであろう 121)

「神の戒めに従おうと努めながら、喜びや平安のない人が多い。彼らの経験に喜びや平安が欠けているのは、信仰を働かさなからである。彼らはあたかも、塩の土地や焼けつく荒野を歩いているかのようである。彼らは多くのことを求めることができるのに、ほとんど求めない。神の約束には制限がないのである。」(患難から栄光へ下巻 267)

すべての人が今期の安息日聖書教科から富ませられ、わたしたちの信仰が実際に全知のお方と論じることによって十分に強められますように！

世界総会安息日学校支部

第一安息日献金

ロシアの北カフカス、アディゲの教育健康センター

ロシア領土は 17,125,191 平方キロメートル (6,612,073 平方マイル) で、人口はおよそ 146,780,000 人、そのうち 1 億 1100 万人がロシア人です。残りの 3500 万人の中に 180 国家以上の代表者がいます。主な宗教はオーソドックス (42%)、次がイスラム教(30%)です。他の宗教には、カトリック (3%)、旧信徒 (東オーソドックスクリスチャンの一派)、及びプロテスタント (2%)、仏教、ユダヤ教、ギリシャ・カトリック (1%) があります。



1925 年以降、改革のメッセージが非常に困難な状況で宣布されてきました。多くの兄弟たちは神のみ言葉のゆえに投獄されてきました。ある人々は真理のために命を犠牲にしました。1990 年に、わたしたちの教会は自由に説教をする機会を得ました。そして彼らはこの機会を活発に用いました。2018 年 6 月には、ロシア連合が組織されました。最近の数年は、公に説教する機会は大いに制限されてきました。そこで、わたしたちはキャンプミーティングを開催したり福祉伝道の働きを行うために、自然の中の一画の土地を探してきました。主はカフカス山脈のすばらしい山景色を持つ丘に 5 ヘクタールを購入させていただきました。山岳地方に水を見出すのは非常に難しく、土地は比較的低価です。しかし、主はこのことをかえりみて下さり、わたしたちがただ飲むためばかりでなく、池とするために土地の中に水の泉を見出すのを助けてくださいました。わたしたちはこのお方のみ摂理の大いなる祝福をとて感謝しています! 2019 年の夏には、集会のために、食堂、小さな二つの家を夏用の建造物を建てることだけでしたが、この土地で初めてのキャンプミーティングを行いました。そこで福祉セミナーを開催するため、医者を招待しました。預言の霊からの光に従って、またわたしたちの状況を考慮し、もしこの目的のためにしかるべき建物が建てられるのであれば、医事伝道のための大きな可能性がある事を認めました。

わたしたちは神の憐れみによって、また全世界の兄弟たちの援助をもって、主が地元の兄弟たちが自分たちで支払うことは不可能なこの事業を完成するよう助けて下さると信じています。主が祈りと資金をもってこの事業を支援したいと望むすべての人を祝福して下さいますように。

ロシア連合から皆さんの兄弟姉妹より

今日人類のための神のみ言葉

暗唱聖句：「主はこう言われる、『おおそ人を頼みとし肉なる者を自分の腕とし、その心が主を離れている人は、のろわれる』。(エレミヤ 17:5)

「神はつねにあわれみ深く忠実な方であり、わたしたちが信頼を寄せている人から、たびたび失望させられることをお許しになるが、それはわたしたちが人間にたより、肉を助けとすることの愚かさを学ぶためである。」(ニストリー・オブ・ヒーリング 471)

推奨文献： 両親、教師、聖徒への勧告 460-463;
クリスチャン教育の基礎 129-137

日曜日

1月1日

1. 聖書がどのように与えられたか

a. 聖書はどのような方法で与えられましたか(詳細を述べなさい) テモテ第二 3:16; ペテロ第二 1:21; 民数記 12:6)。

「靈感を受けたのは聖書の言葉ではなく、人が靈感を受けたのである。靈感は人の言葉やその表現に働いたのではなく、人自身に、すなわち、聖霊の感化の下にある人が、思想を吹き込まれたのであった。しかし、言葉や思想は個人の思いの印象を受ける。神の思いが拡散される。神の思いとみ旨が人間の思いと意志に結合する。このようにして人の言葉が神の言葉なのである。」(セクレット・メッセージ 1巻 21)

b. 神からの導きを求めるとき、夢や幻についてわたしたちは何を悟らなければなりませんか(申命記 13:1-5; エレミヤ 29:8)。

c. 夢のその他の原因は何でしょうか(伝道の書 5:3, 7)。

d. どのようにわたしたちは預言者を試みますか(コリント第一 14:32; イザヤ 8:19, 20)。

2. 聖書は無謬か？

- a. わたしたちは神のみ言葉の純粹さをどのぐらい信賴することができますか（詩篇 12:6, 7）。

「我々は最も貴重な真理に満ちた聖書を持っている。それには知識のアルパとオメガが含まれている。」（福音宣伝者 309）

「聖書には誤ることのない神の勸告がある。その教えは、実際に実践されると、人をどのような義務の地位にもふさわしいものとする。それは毎日魂に語りかける神のみ声である。いかに注意深く若者は神のみ言葉を研究し、その趣旨を心に蓄え、そうすることによってその規則が行動全体を支配するようにすべきことであろう。」（教会への証 4 巻 441）

「神は、みことばの中に、救いに必要な知識を人間にお与えになった。聖書は神のみことばについての権威ある、まちがいのない啓示として受け入れられなければならない。それは品性の規準であり、教理を示すものであり、経験を吟味するものである。」（信仰によってわたしは生きる 13）

〔青年〕にはまちがいのない助言者と確かな案内人が必要である。それは神のみことばのうちに見いだす。このみことばを忠実に研究する者とならないならば、現世と来世のために自分の幸福も他人の幸福もそこなうような重大なまちがいを起す。」（青年への使命 445）

- b. 聖書の中に見出す原則はどれほど永続的なものですか（マタイ 24:35; 詩篇 119:160; イザヤ 40:8）。

「〔キリスト〕は、神のみことばが、すべての者によって理解されるべきであることをお教えになった。キリストは、聖書が疑問の余地のない権威書であることを指摘されたが、わたしたちもそうすべきである。聖書は、無限の神のことばであって、あらゆる論争の解決とすべての信仰の基礎であることを示すべきである。」（キリストの実物教訓 16）

「聖書は神のみ声として完全に受け入れられ、研究されるとき、人類家族に、どのように永遠の幸福の住まいに到着し、天の宝を確保するかを教える。」（クリスチャン教育の基礎 444）

「わたしたちの学校で行うべき教育は、さらに確固とした神の言葉の知識を与え、魂を神との生きたつながりへ導き入れ、神をつねに思いの目の前に置き、魂のより良い感情をすべて呼び起こすようなものとならないのであろうか。これこそ永遠にまで続く教育である。」（世界総会冊子 1899 年 3 月 6 日）

3. 神の靈感の書物を受け入れる

- a. 神がご自分の預言者を通して語られるとき、わたしたちは何を悟らなければなりませんか(エレミヤ 1:4-9; テサロニケ第一 2:13)。

「キリストは、弟子たちに、心を開いて教えを受け、快く信じるようにとお教えになった。彼らは、目で見、耳で聞いたことを信じたので、さいわいであると、主はいわれたのである。

聖書を自分に語りかける神のことばとして受け入れる人だけが真に学ぶ者である。彼は、みことばに強く心を打たれる、ことばは彼にとって生きた実在なのである。」(キリストの実物教訓 37)

「聖書は、神をその著者として指し示す。しかし、それは人間の手で書かれた。そしてその種々の書の異なった文体は、それぞれの訳者の特徴を表わしている。そこにあらわされている真理は、みな『神の靈感を受けて書かれたもの』であるが、それは人間のことばで表現されている(テモテ第二 3:16)。限りなきおかたである神は、聖霊によって、ご自分のしもべたちの心と頭に光をお与えになった。神は、夢とまぼろしと象徴をお与えになった。そして、このようにして真理を啓示された人々は、その思想を人間のことばであらわしたのである。」(セルゲット・メッセジ 1巻 25)

- b. わたしたちが神の全知と永遠の性質を理解するのを助けるために、神はしばしばご自分の預言者を通して何を明らかになさいますか(アモス 3:7; イザヤ 46:9, 10)。

「歴史と預言は、全地の神がお選びになった光の担い手を通して、世に神秘を明らかになさっていることを証している。懐疑的な世界は、高等教育について語り記しながら、自分が理解していないことを無駄に話している。それは、真の高等教育がさらに完全な神と神がつかわされたイエス・キリストの知識を意味することを認めない。真の人間の科学はみな科学の神からであり、神が世にご自分こそ万物をおさめる王であられることを表しておられることを理解している人はほとんどいない。」(聖書訓練学校 1912年 12月 1日)

「人類の歴史の記録の中では、世界の諸国民の発展や諸帝国の興亡は、人間の意志や勇氣に左右されているかのようにみえる。いろいろな事件の形成は、その大部分が人間の能力や野心やあるいは気まぐれによってきまるかのようにみえる。しかし神のみ言葉である聖書の中には幕が開かれていて、われわれはそこに、人間の利害や権力や欲望の一切の勝ち負けの上に、また背後に、あるいはそれを通して、あわれみに満ちた神の摂理が、黙々と忍耐づよくご自身の目的を達成するために働いているのを見るのである。」(国と指導者下巻 108)

4. 何がわたしたちの側で必要か？

- a. わたしたちが聖書を研究するとき、どのような種類の態度をとるべきですか（イザヤ 66:1, 2; ヨハネ 7:17; 使徒行伝 17:10, 11）。

「魂がキリストに屈服するとき、新しい力が新しい心を占領する。人が自分自身ではなしとげることのできない変化が行われる。それは超自然の働きであって、人の性質に超自然の要素をもたらす。キリストに屈服した魂はキリストご自身のとりでとなり、キリストはそれをそむいた世の中に保たれる。キリストはそこでご自身の権威よりほかの権威がみとめられないように望まれる。このように天の勢力によって占領された魂はサタンの攻撃に攻め落されることがない。しかしわれわれは、キリストの支配に服していないときに、悪魔に支配される。」（各時代の希望中巻 41）

「反論し、質問し、批判し、嘲笑することは多くの人を受けてきた教育であり、彼らが結ぶ実である。彼らは証拠を認めることを拒否する。生来の心は光、真理、知識に対して敵対する。イエス・キリストはあなたがもてなしをうけていたすべての寝室におられたのである。これらの部屋からどれくらいかの祈りが天へと上ったことであろう。」（エレン・G・ホワイト 1888 原稿 140）

「わたしたちが日々神のご意志を行っているのではない限り、わたしたちの教理が正しく、あらゆるもみ殻や誤謬がないという保証はない。もしわたしたちがこのお方のみ旨を行うなら、教理を知るのである。わたしたちは真理をその神聖な美しさの内に見るようになる。わたしたちはそれを畏敬の念と敬虔な恐れをもって受け入れる。そのときに自分が真理であると知っていることを他の人にも提示することができるのである。この厳粛な働きの中に優越感や、自己称賛があってはならない。」（同上 46）

- b. 聖書のどの部分が他の部分よりも重要ですか（ローマ 15:4; ルカ 24:27; イザヤ 28:10）。

「聖書のすべての部分が神の靈感によって与えられたものであり、有益である。旧約聖書も新約聖書に劣らず、注目を受けるべきである。わたしたちが旧約聖書を研究すると、不注意な読者には砂漠としか認められない所に生きた泉が湧き出ているのを見いだす。

旧約は新約に、そして新約は旧約に光を当てる。それぞれキリストの内にある神の栄光の啓示である。」（両親、教師そして生徒への勧告 462）

5. 読んで学ぶだけでは不十分

- a. わたしたちは聖なる書物を学びながら、学んだことをどうすべきですか（箴言 2:1-5; 詩篇 119:11, 16）。

「聖霊は、青年に語りかけることを愛しておられて、神のことばの宝と美とを彼らが発見すること望んでおられるのである。大教師の語られた約束は、彼らの心をしっかりと捕え、彼らの魂を霊的力によって活気づける。人びとは、豊かに実を結び、神に関する知識をさらに深めていき、誘惑に対しても防壁を持つようになる。

真理のことばは、ますますその重大性を増し、これまで夢想さえしなかった意味深さをもったものとなる。みことばの美と富とは、人の心と品性を変える力を持っている。天からの愛の光は、靈感となって人びとの心の上に注がれる。」（キリストの実物教訓 111）

- b. もしこれらのことを心に留めているならば、わたしたちは何に比べることができるでしょうか（ルカ 6:46-49）。

「神のみ言葉の尊い真理が蓄えられる心は、サタンの誘惑に対して、また不純な思想や、清くない行動に対して防備が固められる。」（今日の私の生涯 28）

- c. わたしたちは主に何をさせていただくことを求めるべきですか。それはなぜですか（詩篇 119:133）。

「神聖な知恵は主に信頼を置く者の歩みを整えて下さる。神聖な愛は彼らを取り囲み、そして彼らは御霊、すなわち慰め主の存在に気が付くであろう。」（わたしたちの高い召し 324）

個人的な復習問題

1. どのように神聖な靈感は人類に与えられていますか。
2. どの程度わたしたちは聖書に信頼することができますか、それはなぜですか。
3. 預言的な書物をお与えになったご目的は何ですか。また靈感による書物はみなそれらにどの権威を伴っていますか。
4. 態度は聖書研究にどのような影響をおよぼしますか。
5. わたしたちは確かな土台の上にどのように自分の生活を築きますか。

力強い神のみ言葉

暗唱聖句：「神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください。」(詩篇 51:10)

「試みがしばしば抵抗できないもののように見えるのは、祈りと聖書研究を怠っているために、試みられている者が神のみ約束をすぐに思いだすことができず、聖書という武器をもってサタンに対抗することができないからである。」(各時代の大争闘下巻 367)

推奨文献：クリスチャン教育の基礎 123-128

日曜日

1月8日

1. 十字架の兵卒

- a. 地上に寄留している間、常に何に気をつけていなければなりませんか (ペテロ第一 5:8)。したがってパウロはクリスチャンの生活を何に例えていますか (テモテ第二 2:3)。

「自分の無価値さを感じ、十字架につけられ、よみがえられた救い主の血の功績にまったくより頼む魂ほど、無力なものはなく、依存しているものはない。クリスチャンの生活は戦い、すなわち絶え間ない争闘の生涯である。それは戦闘と進軍である。しかしキリストに対するすべての従順の行為、主のためになされるすべての自己否定の行為、またよく耐えたすべての試み、そして誘惑に対して得たすべての勝利は、最後の勝利の栄光へと前進する一歩である。」(彼を知るために 253)

- b. どのようにするときのみ、最終的に勝利を得ることができますか (エペソ 6:11-17)。

「全身に神の武具を身に着け、瞑想と祈り、そして聖書研究に毎日いくらかの時間をささげると、人々は天とつながり、周りの人々に救い変化させる感化を及ぼすようになる。偉大な思想、高貴な願望、真理と神への義務の明確な認識は、彼らのものである。…このような階級の人々は無限のお方のみ前に来る聖別された大胆さを持つようになる。彼らは天の光と栄光が自分たちのものであると感じる。そして彼らは、この神との親密な知識によって洗練され、高尚にされ、高貴にされるであろう。それが真のクリスチャンの特権である。」(教会への証 5巻 112)

2. み言葉にある力

a. み言葉は真に魂に受け入れられたとき、どれほど刺し貫きますか（ヘブル 4:12）。

「心の中で熟考された靈感の言葉は、命の水の川から流れ出る川のようになる。わたしたちの救い主は弟子たちの思いが開かれて聖書が理解できるようにと祈られた。そしてわたしたちが祈る心で聖書を学ぶときはいつでも、御霊が近くにおられて、わたしたちが読むみ言葉の意味を開いてくださるのである。」（わたしたちの高い召し 205）

「実践的な真理が生活に持ち込まれなければならない。そして鋭いもろ刃の剣のようなみ言葉がわれわれの品性に残っている自我を切り取らなければならない。

み言葉は高慢な者を謙遜に、強情な者を柔和で心砕けた者に、不従順な者を従順な者にする。人には自然な罪深い習慣が日々の行為に織り込まれている。しかし、み言葉は肉の欲を切り離す。それは思想と思いの意図を見分ける。それは関節と骨髄とを分け、肉の欲を切り離し、喜んで主のために苦しむ者とする。」（SDA パイプ・コメンタリー [E・G・ホワイト・コメント] 7巻 928）

b. はじめにみ言葉は、どのぐらい速やかに天と地を造りましたか（創世記 1:1; 詩篇 33:6, 9）。

c. 神はどのような材料から自分の言葉を用いて諸世界を創造なさいましたか（ヘブル 11:3）。諸世界を創造なさった後、神は被造物を自分自身の力で生きるように放っておかれましたか（ヘブル 1:3）。

「世界を存在させたのと同じ創造の力は宇宙を維持し、自然の働きを継続するために今も発揮されている。神の御手は天を秩序正しく行進する惑星を導いておられる。地球が毎年太陽の周りをまわり続け、豊かな実りを生み出すのは、固有の力によりものではない。神のみ言葉が支配する要素である。このお方は天を雲で覆い、地のために雨をお備えになった。この方は谷を実り豊かにし、そして『もろもろの山に草をはえさせ』（詩篇 147:8）られた。植物が繁茂し、葉が現れ、花が咲くのも、このお方の力によるのである。」（両親、教師そして生徒への勧告 185, 186）

3. 罪を認める

- a. 神に対してまたバテシバに対して罪を犯した後、ダビデは何を切望しましたか（詩篇 51:1-4）。
- b. 聖なる記録に残されたダビデの悔い改めの表現を読むとき、彼の最も深く懸念したことは何でしたか。自分の直面した結果でしたか、あるいは神との関係に回復されることでしたか（詩篇 51:5-10）。

「ダビデは、墮落後、まる一年間というものは、一見、安泰に暮らしていた。表だった神の怒りのしるしはなかった。しかし、神の宣告は、彼の頭上にかかっていた。どんな悔い改めも避けることのできない刑罰と報復の日は、急速にしかも確実に近づいていた。それは、彼の全生涯を陰うつにする苦悩と恥辱であった。ダビデの例を引用して、自己の罪のとがを軽減しようと試みるものは、不真実な者の道は滅びであることを聖書から学ばなければならない。彼らも、ダビデのように悪の道から立ち直っても、罪の結果はこの世においてさえ、苦く耐えがたいものであることを知るであろう。」（人類のあけぼの下巻 424）

「ダビデは、心から深く悔い改めた。彼は、自分の罪の弁解をしようとはしなかった。彼は、自分に下る刑罰からのがれようと望まずに、神に祈りをささげた。しかし、彼は、神に対する自分の罪の大きさを認めた。彼は、自分の心の汚れを悟った。彼は、自分の罪を嫌悪した。彼が祈ったのは、ただ許されることだけでなく、心が清められることであった。ダビデは、絶望して苦闘を放棄することをしなかった。悔い改める罪人に対する神の約束の中に、許されて受け入れられる証拠を彼は見たのである。」（同上 428）

「ダビデは、魂の悔い改めと悔悟のうちに、神の御前で自分の心をへりくだらせ、そして、神の許しの約束が成就すると信じたので、その罪が許されたのである。彼は自分の罪を告白し、悔い改め、そして再び改心させられた。許しの確証の喜びのうちに『そのとがはゆるされ、その罪がおおい消される者は幸いである。主によって不義は負われず、その霊に偽りのない人は幸いである』と叫んだ（詩篇 32:1,2）。祝福は許しのゆえに来る。許しは信仰、すなわち告白し、悔い改めた罪が大いなる罪を負われるお方によって負われるという信仰を通して来る。このようにキリストを通してすべての祝福が来る。このお方の死は、わたしたちの罪のための贖罪の犠牲であった。このお方はわたしたちが神の憐れみと恩寵を受ける偉大な仲介者であられる。」（わたしたちの高い召し 83）

4. 人の心を変える力

- a. 汚れた罪深い生活を純粋な生活に変える可能性という希望を与えるものは、何ですか (ヨブ 14:4; エレミヤ 13:23; エゼキエル 36:26, 27)。

「別にキリストの力によって新たにされないでも、外見だけは正しい行いをする人のあることは事実である。自分の勢力を張ろうと思ったり、他人からよく思われたいと望んで規律正しい生活をすることもできる。また自尊心が悪と思われたいことを避けることもあるだろう。あるいは利己主義な人が、情深い行為をすることもできるだろう。では、わたしたちがどちらの側に立っているかを、どんな方法ではっきり決めることができるであろうか。」(キリストへの道 74, 75)

「神は、この世にある悪との戦いに勝つための手段を、豊かに与えておいでになる。聖書は、われわれが戦いのために身支度をする事ができる兵器庫である。」(患難から栄光へ下巻 198)

- b. 墮落した人間の心を義のうちに喜ぶ者に変える唯一の方法は何ですか (ヨハネ 3:3)。

「以前にはきらっていたものを今は愛するようになり、かつて愛していたものはきらうようになる。高慢、不遜な人は、柔和、けんそんになる。軽佻浮薄な人はまじめに控え目になり、酒に酔う者はそれをやめ放蕩者は純潔になる。」(キリストへの道 75, 76)

- c. その変化の証拠は何ですか (ガラテヤ 5:22, 23)。

「血すじにより、肉の欲によって生まれた古い性質は、神の国を受け継ぐことができない。古い方法、遺伝的傾向、以前の習慣は捨てねばならない。なぜなら、恵みは受け継ぐものではないからである。新生とは、新しい動機、新しい好み、新しい傾向を持つことから成り立っている。聖霊によって新しい命に生まれた人々は、神性にあずかる者となり、そのすべての習慣や行いの中にキリストとの関係の証拠を示すようになる。クリスチャンであると主張する人々が、自分たちの生まれつきの品性や気質の欠点をすべて残しているとすれば、彼らの立場は世の立場と何が違っているのだろうか。彼らは真理を聖化するもの、精錬するものとして感謝しない。彼らは新たに生れていないのである。」(SDAパイロコメンタリー [E・G・ホワイト・コメン] 6巻 1101)

5. 神のみ言葉によって生まれる

- a. 何が、墮落した邪悪な個人の心の中に、これほど根本的な変化をもたらす力をもっていますか（ローマ 1:16; ヨハネ 1:1; 15:3; ペテロ第一 1:23）。

「聖書はすべての歴史の中で最もすばらしいものである。なぜなら、有限な人間ではなく、神の著作だからである。それは何世紀にもさかのぼり、万物の始まりにわれわれを連れて行き、他の方法では決して知ることができなかった時代や場面の歴史を提示する。墮落した世界を救うみ摂理の働きの中で神の栄光を明らかにする。それは最も単純な言葉で福音の強力なちから、すなわち受け入れられるならば、人々をサタンの戦車に縛り付ける鎖を断ち切ることでできる力を示している。」（クリスチャン教育の基礎 377）

- b. み言葉はわたしたちの内に何を活性化させますか。またそれはなぜ勝利の生涯にそれほど必要なのですか（ローマ 10:17; ヨハネ第一 5:4）。どのように残りの生涯で同種の勝利を維持しますか（コロサイ 2:6）。

「このように信仰によって真理の原則を受け入れ、それを同化するとき、それはわれわれの生命の一部となり、生活の原動力となる。神のみことばは魂に受け入れられて、思想を形成し、品性の発達の要素となる。

信仰の目をもってイエスをたえずながめることによって、われわれは強められる。神は、飢えかわいているご自分の民に最もとうとい啓示をお与えになる。彼らはキリストが自分自身の救い主であることを発見する。キリストのみことばを食べるときに、彼らは、それが霊でありいのちであることを知る。みことばは、生れながらの世俗的な性質を滅ぼし、イエス・キリストのうちに新しいいのちを与える。聖霊は、助け主として魂にくだる。人を生れ変らせる神の恵みの力によって、神のみかたちが、弟子のうちに再現され、彼は新しい人間となる。愛が憎しみに入れ代り、心は神のみかたちにかたどられる。」（各時代の希望中巻 141）

個人的な復習問題

1. 悪に対するクリスチャンの戦いはどれほど深刻ですか。
2. この戦いにおいてみ言葉はどのような重要な役割がありますか。
3. 生来の罪の破壊的な深さをどのように理解することができますか。
4. 魂の聖化はどのように行われますか。
5. どのようにしてキリストとの関係を維持することができますか。

火のへび

暗唱聖句：「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ 11:28-30)

「神の御子の人性はわれわれにとってすべてである。それはわたしたちの魂をキリストに結び付け、キリストを通して神に結びつける黄金の鎖である。これがわれわれの研究課題となるべきである。」(セレクトド・メッセージ 1巻 244)

推奨文献： 各時代の希望上巻 33-35, 120-134

日曜日

1月15日

1. アブラハムのすえ

- a. 靈的生活に影響を与える非常に危険な態度について述べなさい(ヨハネ 8:33)。
- b. わたしたちを罪の奴隷をしているものは何ですか(ヨハネ 8:34, 39-44)。

「パリサイ人は、自分たちはアブラハムの子であると宣言していた。この主張はアブラハムのわぎをすることによってのみ立証できるのだと、イエスは彼らにお告げになった。アブラハムの真の子ならば、アブラハムと同じように、神に服従する生活を送るであろう。彼らは、神から与えられた真理を語っておられるおかたを殺そうとはしないであろう。キリストに対して陰謀をくだでているのだから、ラビたちは、アブラハムのわぎをしているとはいえなかった。アブラハムの系図による子孫であるということだけでは、何の価値もなかった。アブラハムと同じ精神を持ち、同じわぎをすることにあらわされる靈的關係がないならば、彼らは、アブラハムの子ではなかった。」(各時代の希望中巻 256)

- c. この残酷な主人の独裁からどのように解放されることが可能でしょうか(ヨハネ 8:32, 36; ガラテヤ 3:29)。

2. 「知る」とはどのような意味か

- a. 裁判の場でピラトはどのような極めて重要な質問をしましたか(ヨハネ 18:38 (上句)。もし彼が救い主の答えを聞くために少し立ち止まっていたなら、どのような答えを受けることができたはずですか(ヨハネ 14:6)。

「ピラトは真理を知りたいと願った。彼の心は混乱していた。彼は熱心に救い主のことはをとらえ、彼の心は、それが本当に何であるか、またどのようにしたらそれを自分のものにすることができるかを知りたいとの熱望に動かされた。『真理とは何か』とピラトはたずねた。しかし彼は返事を待たなかった。外部の騒ぎが彼の関心を当面の問題に引きもどした。祭司たちが今すぐ判決をくださうようにわめき立てていたからである。ピラトはユダヤ人たちのところへ出て行くと、力をこめて、『わたしには、この人になんの罪も見いだせない』と宣言した(ヨハネ 18:38)。(各時代の希望下巻 235)

- b. 人がみ言葉を学びながら、なお神を知らずにいるとき、何が起こりえるかを説明しなさい(マルコ 12:24; テモテ第二 3:7)。

「サドカイ人は、すべての人たちの中で自分たちが一番聖書に忠実であるとうぬぼれていた。しかしイエスは、彼らが聖書の真の意味を知っていないということを示された。」(各時代の希望下巻 54)

- c. どのようにして、わたしたちの墮落した性質は欲しないお方に、引き付けられることが可能ですか(ヨハネ 12:32; 8:28; マタイ 11:28-30)。

「律法が人々の前に提示される時はいつでも、真理の教師は、約束の虹がかかる御座、キリストの義を指し示そう。律法の栄光はキリストである。このお方は律法を大いなるものとし、かつ光栄あるものとするためにおいでになった。いつくしみとまこととがキリストのうちに出会い、義と平和とが互いに抱擁したことが明確になるようにしなさい。あなたがクリスチャン品性を完全にし、キリストを世に提示するのは、あなたが神の御座に目を向け、悔い改めと賛美と感謝を神に捧げている時である。あなたがキリストの内に宿り、キリストがあなたのうちに宿られる。あなたはあらゆる理解を越えた平安を持つ。わたしたちはキリストとその魅力的なすばらしさについて常に瞑想する必要がある。わたしたちは思いをイエスに向け、それらをこのお方に集中させなければならない。すべての説教の中で、神聖な特質を深く論じなさい。」(エリ・G・柯什 1888 年原稿 730)

「サドカイ人は、すべての人たちの中で自分たちが一番聖書に忠実であるとうぬぼれていた。しかしイエスは、彼らが聖書の真の意味を知っていないということを示された。」(各時代の希望下巻 54)

3. 荒野におけるへび

- a. 神は荒野で毒へびに刺された人々に、どのような治療法をお備えになりましたか。癒しがなされるためには何が必要でしたか（民数記 21:6-9）。

「〔イスラエルの子ら〕は、神の力に保護されていたために、自分たちを常に取り囲んでいた無数の危険に気づかなかったのである。彼らは、忘恩と不信のうちに死んでしまうと思っていた。そこで、主は、彼らに死がのぞむことをお許しになった。荒野にはびこっていた毒へびは、それにかまれると激しい炎症を起こして死ぬので、火のへびと呼ばれていた。神の保護のみ手がイスラエルから取り除かれると、多くの人々が毒へびにかまれた。…

モーセは、本物に似せて青銅のへびを作り、それを人々のなかにかかげるようなという命令を神から受けた。かまれた者は、すべて、このへびを見上げて助かるのであった。彼は言われたとおりにした。そして、かまれたものは、みな、青銅のへびを見上げよ、そうすれば救われるという喜ばしい知らせが宿営中にひびきわたった。すでに死んだ者も多かった。そして、モーセがへびをさおの上にかかげたとき、青銅のへびの像を見上げただけでいやされるということを信じようとしないうももあった。そのような人は、不信仰のために滅びた。しかし、神が用意されたものを信じたものも多かった。…たとえどんなに弱り果てて、死にそうになっても、もし彼らが一目でも見る事ができれば、完全にいやされるのであった。

人々は、それを見上げる者にこうした変化を起こさせる力が、青銅のへびにはないことをよく知っていた。いやしの力は、神からだけ来るものであった。知恵に富まれる神は、このような方法によって、ご自分の力をあらわされた。この簡単な方法によって、この苦難が、自分たちの罪のために起こったことを人々はさとらされた。それと共に、神に服従するならば、何も恐れることはないという保証が与えられたのである。なぜなら、神は、彼らを守られるからであった。」（人類のあけぼの下巻 32, 33）

- b. この経験は年を経たへびに刺されて苦しみ（黙示録 12:9）、癒しを切望する人々の経験と、どのように似ていますか（ヨハネ 3:14, 15; 1:29）。

「悔い改める罪人に、『世の罪を取り除く神の小羊』に目をそそがせなさい（ヨハネ 1:29）。見ることによって彼は変えられる。彼の不安はよるこびにかわり、疑いは望みにかわる。感謝の思いがわきあがる。石の心がぐだかれる。愛の潮流が魂に流れこむ。キリストは彼のうちにあつてわきあがって永遠のいのちにいたる水の泉となられる。」（各時代の希望中巻 219）

4. イエスとはだれか

- a. キリストは地上で完全な生涯を送られました(ペテロ第一 2:21, 22)。しかしなお、キリストとその忠実な信者たちに引き付けられる代わりに、ほとんどの人の反応は何でしたか(テモテ第二 3:12; ヨハネ 3:19, 20)。

「初代のキリスト者たちは、実際、特殊な民であった。彼らの非難するところのない行状と確固たる信仰とは、絶えず罪人の心を責めるものであった。彼らは数が少なく、富も地位も名誉ある称号もなかったけれども、その品性と教義とが知られているところではどこでも、悪を行なう者たちにとって恐怖であった。それゆえに彼らは、アベルが神を恐れないカインに憎まれたように、悪人たちに憎まれた。カインがアベルを殺したのと同じ理由から、聖霊の抑制を拒む人々は神の民を殺した。ユダヤ人が救い主を拒んで十字架につけたのも、同じ理由からであった。すなわち彼の品性の純潔と神聖とが、絶えず彼らの利己心と墮落とを責めたからであった。キリストの時代から今に至るまで、彼の忠実な弟子たちは、罪を愛してその道を歩む者たちの憎しみと反対とを引き起こしてきたのである。」(各時代の大争闘上巻 39, 40)

- b. 人類を引き寄せる能力を持っておられる世の救い主には、どのような最高の力が表わされていますか(テモテ第一 3:16; ヨハネ 1:1-3; ヘブル 1:8)。

「もしキリストが万物をお造りになったとすれば、キリストは万物の前に存在しておられたのである。これに関して語られている言葉は非常に決定的であるため、だれも疑いのうちに取り残される必要はない。キリストは本質的に、また最高の意味において神であられる。このお方は永遠から神と共におられ、神はすべてを支配し、永遠にほむべきお方である。」(セクレット・メッセージ 1巻 247)

「神は、み子の人間としての最後の苦悩を、深いやみのなかにおおいかくされた。苦難のうちにあるキリストを見た者はみな、キリストの神性を確信していた。そのお顔は、一度見た人は、決して忘れなかった。カインの顔が殺人者としての彼の罪悪を表わしていたように、キリストのお顔は、潔白、平静、慈愛一神のみかたちをあらわした。しかしキリストを訴えた者たちは、天のしるしに注意しようとしなかった。長時間にわたる苦悩の間じゅう、キリストは、嘲笑する群衆の視線を浴びておられたが、いま彼はあわれみ深くも神のマントにかくされた。」(各時代の希望下巻 276)

「キリストの謙遜を考えなさい。彼はご自分の上に、罪によって退化し損なわれ、墮落して悩む人性をおとりになった。彼は我々の悲しみを引き受け、悲痛と恥を負われた。彼は人が悩まされるあらゆる試みに耐えられた。彼は人性と神性を結び合わされた。神の霊が肉の宮に宿ったのである。」(SDAパイブルメンタリー [E・G・ホワイト・コメント] 4巻 1147)

5. 神が肉体となられた

- a. 人類を悲惨な惨めさと絶望的な状態から救うために、この神聖なお方は、何になっただけでしたか（ヨハネ 1:14; ヘブル 2:9）。
- b. イエスはご自分のしみのない神聖な性質の上に何をおとりになったかを述べなさい（ヘブル 2:10, 11, 14, 17）。
- c. カルバリーの十字架に引き寄せる力があるように、イエスはどれほどまでご自身をへりくだらせなければなりませんでしたか（ヘブル 2:14; ピリピ 2:6-8; テモテ第二 2:8）。

「このことを考えると、人間は自分を高めるものを一片でも持つことができるだろうか。彼らがキリストの生涯、苦しみ、屈辱をたどるとき、彼らはあたかも何の訓練も恥辱も屈辱も負うことはないかのように誇り高い頭を上げることができるだろうか。わたしはキリストに従う人々に言う、カルバリーを仰いで、うぬぼれた思いに恥じ入るようにと。天の大君のこれらすべての屈辱は、罪深い有罪宣告を受けた人間のためであった。このお方は人間を道徳的な墮落から引き上げるために、屈辱のうちにますます低く、ついにそれ以上低い深さへ行くことができないところまで行かれた。低く低く下り、これ以上、下れないところまでご自分を低くされた。」（SDA バイブルメモリアル [E・G・初作・コメント] 5巻 1127, 1128）

「わたしたちがすべてをささげると言っても、いったいなにをささげるのであろうか。それは、イエスにきよめられ、その血によって洗われ、かれの無比の愛によって救われるためにささげる罪に汚れた心だけである。それなのに人々は、それを捨てがたいと思っている。わたしはそういう話を聞き、また書くことさえ恥ずかしいのである。

神は、わたしたちが持っている益になるものは、なにひとつ捨てるようにはお求めにならない。なにをなさるにも、いつもその子らの幸福を考えておいでになる。自分が今求めているよりはるかに良いものを神は備えておいでになるということ、キリストを選んでいないすべての人が悟るように望む。」（キリストへの道 58）

個人的な復習問題

1. アブラハムの子であるユダヤ人からわたしたちは何を学ぶことができますか。
2. 聖書を勉強しながら、どのようにその要点を完全に外してしまうことが可能ですか。
3. 荒野における恐ろしいへびからわたしたちは何を学ぶことができますか。
4. カルバリーの人に惹かれることを可能にするものは何でしょうか。
5. なぜイエスは罪深い人間の性質をおとりになったのですか。

わがともしびに油を与えたまえ

暗唱聖句：「万軍の主は仰せられる、これは権勢によらず、能力によらず、わたしの霊によるのである。」(ゼカリヤ 4:6)

「わたしたちの聖化は、御父、御子、御霊の働きである。それは神と自らを結び、ご自分と御子、御霊と共に聖なる交わりの内に立つ者と神が結ばれた契約の成就である。あなたは新たに生まれたであろうか。あなたはキリスト・イエスの内に新しくされたものであろうか。そうであれば、あなたのために働いてくださっている天のお三方の偉大な力に協力しなさい。そうすることで、あなたは義の諸原則を世に明らかにするのである。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1901年6月19日)

推奨文献： 患難から栄光へ上巻 43-53

日曜日

1月22日

1. 御霊とはどなたか

- a. 御霊はどれほどながく存在してこられましたか(創世記 1:2; 詩篇 51:11; ヘブル 9:14)。
- b. 神の御霊の広範囲にわたる性質を述べ、また説明しなさい(詩篇 139:7-12; コリント第一 2:9-12; ペテロ第二 1:21)。

「ユダヤ制度の時代において、神の御霊の感化は際立った方法で見られたが、完全ではなかった。長年の間、神の御霊を分け与えるという神の約束の成就のために祈りがささげられてきた。そしてこれらの熱心な嘆願は一つとして忘れられてはいなかった。」(今日のわたしの生涯 36)

「罪がこの世に入る前にはアダムは造り主と分け隔てのない交わりをしていた。しかし人間が罪を犯して神から離れてからは、人類はこの尊い特権から切り離されてしまった。しかし贖いの計画によって地上の住民がなお天とのつながりを持つ道が開かれた。神は聖霊によって人間と交わり、選ばれたしもべたちへの啓示によって、世に神聖な光を与えてこられた。」(神の驚くべき恵み 190)

2. このお方は個性を持った存在か

a. 御霊の個性を示す品性の特徴をいくつかあげなさい。

- (1) 御霊はご存じである。コリント第一 2:9-12
- (2) 愛することがおできである。ローマ 15:30
- (3) 交わることがおできである。コリント第二 13:14
- (4) 交わることがおできになるので、話されるはずである。 テモテ第一 4:1
- (5) したがってこのお方は教えることがおできになる。コリント第一 2:13
- (6) このお方は証人になることがおできになる。ローマ 8:16

「キリストは昇天なさった後に、ご自分の信者たちに御霊をお送りになるという確かな約束をお与えになった。『それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父〔個人的な神〕と、子〔個人的な王子また救い主〕と、〔キリストを代表するために天から送られた〕聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのこを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである』と言われた。」(レビュー・アンド・ヘルド 1897年 10月 26日)

「わたしたちは、御霊、すなわち神が人格を持ったお方であるのとまったく同様に人格を持っておられるお方が地を歩いておられることを悟る必要がある。

聖霊は人格を持ったお方である。なぜならこの方はわたしたちが神の子であることをわたしたちの霊と共に証してくださるからである。この証が担われるとき、それはそれ自身の証拠をたずさえていく。そのような時に、わたしたちは自分たちが神の子であることを信じ、確信するのである。……

聖霊は個性をもっておられる。そうでなければ、このお方はわたしたちの霊に対して、またわたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることを証しすることがおできにならないはずである。このお方はまた神なるお方であられる。そうでなければ、神の御思いの中に隠されている秘密を探り出すことがおできにならないはずである。『いったい、人間の思いは、その内にある人間の霊以外に、だれが知っているのか。それと同じように神の思いも、神の御霊以外には、知るものはない。』(伝道 616, 617)

「キリストは人性の制約を受けておられたので、すべての場所へ自らおられるわけにはいかなかった。だからキリストが彼らを後にし、父のもとに行かれて、地上におけるご自分の後継者として聖霊をお送りになることは彼らの利益であった。聖霊は、人間の個性を脱ぎ捨て、それから独立しておられるこのお方ご自身である。このお方はご自分の聖霊によって、あらゆる場所にご臨在なさるお方として、偏在なさるお方としてご自身を表される。」(原稿㉗-ス 14 卷 23)

「生ける天のお三方がおられる。これらの三人の偉大な権力—御父、御子、そして聖霊—の御名によって、キリストを生きた信仰によって受け入れた人々はバプテスマを受ける。そしてこれらの権力者たちは、天の従順な臣民たちがキリストにあって新しい生涯を送るために努力するとき、協力してくださるのである。」(伝道 615)

3. このお方は個性を持った存在か (続)

a. 聖霊の個性を示す他のどのような特徴がありますか。

- (1) わたしたちが祈る時、わたしたちのためにとりなしてください。ローマ 8:26, 27
- (2) このお方は特別な賜物の分配者であられる。コリント第一 12:7-11
- (3) また罪人を悔い改めへと招かれる。黙示録 22:17
- (4) このお方は罪人を悔い改めに招くだけではなく、彼を信仰のうちに印を押し、定着させる。エペソ 1:13
- (5) このお方はわたしたちに印を押し、つまりわたしたちを定着させるので、わたしたちは何に対して警告を受けるべきですか。エペソ 4:30
- (6) このお方が個性を持っておられる存在であるため、イエスは 24 回も人称代名詞の「彼」という表現をお用いになりました。その例の一つがヨハネ 14:16, 17 (欽定訳) です。

「我々の仲保者キリストと聖霊は、人間のために絶えずとりなしをしておられるが、聖霊は世の初めから流された血を差し出しておられるキリストと同じように我々のために嘆願しておられるのではない。聖霊は我々の心に働いて、祈り、悔い改め、讚美、感謝を引き出す。我々の唇からあふれ出る感謝は、聖霊が心の音楽を目覚めさせ、聖なる記憶で魂の琴線を感じさせた結果である。」(SDA バイブルコメンタリー [E・G・ウヰットコム] 6 巻 1077, 1078)

「幸福は小事や大事で成り立っている。……もしわたしたちがキリストのようになり、このお方のご品性の様式を受け入れたいのであれば、わたしたちは小事において、毎日、魂を漸進的な聖化へと訓練しなければならない。わたしたちには無駄にする時間はない。もしあなたが蠟の上にくっぎりとした印を残したいのであれば、あなたはそれを乱暴にたたきつけたりせず、その印を注意深く、しっかりと置き、蠟に型がつくまでそれを押し付けることであろう。主がわたしたちの魂を扱われるのもちようど同様である。……時たまではなく、絶えず聖霊により新しい命がキリストのみかたちに従って与えられるのである。」(天国で 66)

「聖霊はすべての真の祈りをつづつて下さる。わたしは自分のすべてのとりなしにおいて御霊がわたしとすべての聖徒のためにとりなして下さっていることを知ること学んだ。しかしこのお方のとりなしは神のみ旨に従っていて、決してこのお方のみ旨に相反することはない。『御霊も…弱いわたしを助けてください。』そして御霊は神であり、神の思いを知っておられる。したがって病人のための、あるいはその他の必要のためのわたしたちのすべての祈りにおいて、神のみ旨が考慮されなければならない。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1892 年 10 月 3 日)

4. この方の働きは何か

- a. イエスが神の御座の右で、わたしたちのためにとりなすために行かれたとき、何が御霊は救い主の個人的な代表者であることを示していますか（ヨハネ 15:26; 16:13, 14）。
- b. わたしたちの最愛の友なるお方がおられないさびしい心に、御霊は何を供給して下さいますか（ヨハネ 16:7）。
- c. どのように御霊はわたしたちを改心へと導いてくださるのでしょうか（ヨハネ 16:8; ゼカリヤ 4:6）。

「みたまは人を生れかわらせる働きをするものとして与えられるのであって、これがなければ、キリストの犠牲は何の役にもたたなかったであろう。悪の力は幾世紀にわたって強められ、人々がこのサタンのとりことして屈服していることは驚くばかりであった。罪に抵抗してこれに打ち勝つ唯一の道は、制限された力ではなく天来の満ち足りた力をもってこられる第三位の神、聖霊の偉大な働きを通してである。世のあがない主によって達成されたことに効果を与えるのはみたまである。心が清くされるのはみたまによってである。みたまによって、信者は神の性質にあずかる者となる。すべての先天的後天的な悪の傾向に打ち勝つ天来の力として、またご自身の品性を教会に印象づける天来の力として、キリストはみたまをお与えになった。」（各時代の希望下巻 156）

「心に刻まれたキリストのみかたちは、品性に、実際の生活に、日々に反映される。なぜなら、わたしたちが個人的な救い主を代表しているからである。御霊はそれを求めるすべての者に約束されている。あなたが聖書を調べるとき、御霊はあなたのそばにいて、イエス・キリストを個人的な存在として現わしてくださる。」（世界総会冊子 1895 年 2 月 15 日）

「み言葉の宣布は御霊の臨在とその助けなくしては何の役にも立たない。なぜなら、この御霊こそ、神聖な真理の唯一の有能な教師であられるからである。真理が御霊に伴われて心にもたらされた時にのみ、それは良心を奮い立たせ、生活を変えるからである。牧師は神のみ言葉の文字を提示することができるかもしれない。彼はすべての戒めとみ約束に精通しているかもしれない。しかし福音の種をまくことは、この種が天来の露によって命を吹き込まれない限り成功することはできない。神の霊の協力なしには、どれほど教育があっても、どれほど優位点があっても、たとえ偉大であっても、人を光の通路にすることはできない。」（福音宣伝者 284）

5. 聖霊と教会との関係

- a. どのように人は真理を完全に知るようになりますか (ヨハネ 16:13)。
- b. これが聖霊のお働きであるので、真の教会を見つける際にわたしたちを助けることにおいて、このお方の役割は何ですか (テモテ第一 3:15)。
- c. わたしたちの生活において聖霊にいていただくことが非常に重要なので、聖霊の完全な力を得るために何をしているべきでしょうか (ルカ 11:9-13)。

「悪の力の君は、ただ第三の神格、聖霊における神の力によってのみ抑制することができる。」(伝道 617)

「教会が小さな事柄で満足している限り、神の偉大なことを受ける資格はない。しかし、聖霊の賜物は心をきよく保つことができる手段であるのに、なぜわれわれはそれに飢え渴かないのであろうか。主は人の努力が神聖な力と協力するように計画なさった。わたしたちの主イエスが二度目に来臨なさる直前に聖霊の約束の意味を理解することはクリスチャンにとって絶対不可欠なことである。そのことを語り、そのことを祈り、それについて説教しなさい。なぜなら、主は親が子供たちに良い贈り物をするよりもはるかに喜んで御霊を与えてくださるからである。」(ビュー・アット・ワイルド 1892年11月15日)

個人的な復習問題

1. 聖霊が旧約聖書の時代でも活発な代理者であられたことをわたしたちはどのように知ることができますか。
2. 何が御霊は個性を持っておられるという数々の証拠ですか。
3. キリストと御霊の仲保の働きの違いは何ですか。
4. 救いの計画における御霊の最も重要な役割の中に何がありますか。
5. 人々が真の教会を理解するのを助けることにおいて、御霊はどのように関与しておられますか。

第一安息日献金 世界災害救済のために

自然災害は、ますます全世界的に頻繁に深刻になってきています。これらには、一それらに限定されているわけではありませんが一地震、津波、サイクロン、竜巻、ハリケーン、洪水、また火山の噴火が含まれています。

「つむじ風はそのへやから、寒さは北風から来る。神のいぶきによって氷が張り…彼は濃い雲に水気を負わせ、雲はそのいなずまを散らす。これは彼の導きによってめぐる。彼の命じるところをことごとく世界のおもてに行うためである。神がこれらをこさせるのは、懲らしめのため、あるいはその地のため、あるいはいつくしみのためである。」(ヨブ 37:9-13)。



全能なるお方はいつもこの美しい惑星とご自分が造られた被造物の最高の利益を心に留めておられます。しかし、今日、多くの異常で極端な天候が、明確に魂の大敵の兵器庫から起こっています。

「サタンは人々に対し、あらゆる病気をいやすことのできる偉大な医師のようにみせかけながら、他方では病気や災害を生じさせ、ついには人口の多い都市が破滅して荒廃する。彼は今も活動している。海や陸における事故や災害、大火災、激しい突風、すさまじい降雹、あらし、洪水、たつまき、津波、地震など、あらゆる場所に幾多の形でサタンは力をふるっている。彼は取り入れまぎわの収穫を全滅させ、ききんと困窮を引き起こす。彼は空気を恐るべき病毒で汚染させ、幾千人もの人が悪疫で死ぬ。これらのできごとはますますひんぱんになり、悲惨なものになる。破滅は人間にも、動物にもおよぶ。『地は悲しみ、衰え、…天も地と共にしおれはてる。地はその住む民の下に汚された。これは彼らが律法にそむき、定めを犯し、とこしえの契約を破ったからだ』(イザヤ書 24:4, 5)。(各時代の大争闘下巻 252)

何が起ころうと、神の子らは自然災害の結果として生じる人類の甚大な苦しみに対して、どのように応えるよう召されているでしょうか。

主はわたしたちに、どこに見出そうと苦しみを救済するために手を差し伸べることによって、地上におけるこのお方ご自身の模範に従うようにお命じになります。生活の基本的な必要が、突然、自然災害が起こるときに失われます。ですから、どのように、あるいはどこででもできることは助けることが、クリスチャンとしてわたしたちの義務です。世界災害救済のための皆さんの惜しみない献金がそれを可能にするのを助けます。あらかじめお礼申し上げます！

世界総会から皆さんの兄弟より

旧約における福音

暗唱聖句：「これまでに書かれた事からは、すべてわたしたちの教のために書かれたのであって、それは聖書の与える忍耐と慰めとによって、望みをいだかせるためである。」(ローマ 15:4)

「イエスをご自分の民をその罪から救うためにこの世においでになった。このお方はわたしたちを罪のうちにお救いになることはない。なぜなら、このお方は罪に仕えるお方ではないからである。わたしたちは神聖なキリストの引き寄せに応え、自分たちの罪を悔い改め、枝がぶどうの木につながっているようにキリストとつながっていないなければならない。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1892年2月15日)

推奨文献： 人類のあけぼの上巻 53-64

日曜日

1月29日

1. 歴史からの教訓

a. 歴史、特に聖なる歴史を学ぶ必要のある主な理由は何ですか (伝道の書 3:15)。

「各時代にわたって、地上で行なわれる神の働きには、どの大改革や宗教運動を見ても、著しい共通性がある。神が人間を扱われる原則は、常に同じである。現代の重要な運動は、過去の運動と類似しており、昔の教会の経験は、われわれの時代に対して大きな価値のある教訓を与えている。」(各時代の争闘下巻 35)

b. 歴史の研究はわたしたちに福音の希望を差し出すので (ローマ 15:4)、この希望は罪に病む魂に何を提供しますか (ローマ 1:16; ルカ 19:10)。

「聖書のどの部分も、神の靈感によって与えられたもので、それはわれわれの益となるのである。われわれは旧約聖書に対しても新約聖書に劣らない注意をはらうべきである。旧約聖書を研究してみると、不注意に読む人にはさばくとしかみえないようなところに、生ける泉がわき出ているのが見いだされるのである。」(教育 226)

2. 創造の完全さ

- a. 最初の男女が、彼らが創造主のみ手より新しく生まれたとき、彼らはどのような種類の品性を持っていましたか（創世記 1:31; 伝道の書 7:29）。

「人間は、外観においても、品性においても、神のかたちを保っているはずであった。キリストだけが、天の父の『本質の真の姿』ではあるが、人間は、神に似せて造られたのである（ヘブル 1:3）。彼の性質は、神のみ旨と調和していた。人間の知力は、神の事物を理解することができた。彼の愛情は清く、食欲や情欲は理性の支配のもとにあった。彼は、神のかたちをしていて、神のみ旨に完全に服従していたので、清く、幸福であった。」（人類のあけぼの上巻 20）

- b. 人類がこの完全な状態を保ち、永遠に生きるためには、何が要求されていましたか（創世記 2:16, 17）。

「キリストは、戒めが要求することを、少しもゆるやかにはなさない。絶対にまがう余地のないはっきりしたことばで、永遠の命に入るには、戒めに従わなければならないことをお示しになった。これは、墮落前のアダムに要求されたのと同じ条件である。主は、エデンの園で人間に要求なさったのと同じ完全な服従と、しみのない義とを今も求めておられるのである。恵みの契約の下で要求されることは、エデンで要求されたものと同様に広いもので、清く、正しく、善である神の戒めとの調和である。」（キリストの実物教訓 370）

- c. 人が失敗した、つまり罪を犯したので（創世記 3）、わたしたちの最初の両親だけでなく人類全体に、どのような結果がもたらされましたか（ローマ 5:12; 6:23）。

「神の律法に服従することによって、人間はいけがきをめぐらされたように悪から守られる。神が築かれたこの障壁の一か所でもこわす者は、それが持つ保護の力を破壊したのである。なぜなら、敵が侵入して荒らし滅ぼすための通路を開いてしまったからである。

神のみこころの一点をあえて無視することによって、わたしたちの最初の祖先は、この世界にわざわいの水門を開いてしまった。そしてかれらの例にならう者はみな、同様の結果を刈り取る。神の愛がその律法の一つ一つの戒めの基礎である。そして戒めを離れる者は、自分で自分の不幸と破滅をもたらしているのである。」（祝福の山 65）

3. 定義された罪

- a. アダムの違反が神の律法を犯すことを含んでいたと、どのように知ることができますか（ローマ 7:7; 以下参照：出エジプト 20:17; ヨハネ第一 3:4）。

「神の律法は人間を束縛するものではないと教える多くの人びとが、その戒めに従うことは、不可能であると主張している。しかし、それが真実であるならば、なぜアダムは、罪の刑罰を受けたのであろうか。われわれの祖先の罪は、この世に罪と悲しみをもたらした。もし、神の恵みとあわれみがなかったならば、人類は全くの絶望状態に投げこまれたことであろう。だれも自分をあざむいてはならない。『罪の支払う報酬は死である』（ローマ 6:23）。人類の祖先に宣告がくだったときと同じく、今も、神の律法を犯してその刑罰をまぬかれるものはひとりもいないのである。」（人類のあけぼの上巻 50, 51）

「人間は、律法がなければ、神の純潔と神聖さ、あるいは自分自身の罪と汚れについて、正しい考えを持つことができない。罪についての真の自覚もなく、悔い改めの必要も感じない。自分たちが神の律法の違反者であるという失われた状態を悟らず、キリストの贖罪の血の必要を自覚しないのである。心の根本的変化も生活の改変もなしに、救いの希望を受け入れる。このような表面的改心が広く行なわれていて、キリストと結合したことのない多くの者が教会に加えられているのである。」（各時代の争闘下巻 196）

- b. わたしたちがこれらの聖句を読むとき、聖書はイエスが実は律法の違反からわたしたちを救うために来られたことをどのように示しますか（マタイ 1:21）。

「イエスをご自分の民をその罪から救うために死なれた。そしてキリストにある贖いとは、神の律法への違反を止め、すべての罪から自由になることを意味する。神の律法に対する敵意にかきたてられている心はキリストと調和していない。このお方は宇宙の前で律法を擁護し、高めるためにカルバリーで苦しめられたのである。」（信仰と行い 95）

「わたしたちはイエスというすばらしい友を持っている。このお方はご自分の民を律法の違反から救うために来られた。罪とは何か。罪の唯一の定義は、律法の違反であるということである。だからここにイエス・キリストがおられる。このお方はすぐ前に来て下さり、わたしたちにご自分の義を与えて下さる。わたしたちは自分の力では打ち勝つことはできないが、このお方への信仰によってできる。もしあなたがイエス・キリストを信じるなら、今日このお方を持つのである。あなたは今、このお方があなたの救い主であることを信じなければならない。そしてこのお方が死なれたから、また犯された神の律法のすべての要求にこのお方が従順であられたから、あなたにご自分の義を着せて下さることを信じなければならない。もしあなたがこうするなら、イエス・キリストの救う知識を得るのである。アダムとエバはその律法に違反したからエデンを失った。しかし、あなたがこれを犯すなら、天を失うのである。」（Eli・G・初稿 1888 年原稿 128）

4. 信仰の人々の父

- a. なぜ旧約において父祖アブラハムは信仰の人々の父として知られているのですか（ガラテヤ 3:6-9）。

「アブラハムの試練は、人間に課され得る中で最も厳しいものであった。もしそれに失敗していたら、彼は信仰の人々の父として名を残すことはなかったであろう。もし彼が神の命令からそれていたら、世は絶対的な信頼と従順という鼓舞する模範を失ったことであろう。神に捧げるのに貴重過ぎるものは何もないということをおぼやかし、我々が学ぶために、その教訓は各時代を通じて輝くようにと与えられているのである。我々が天の祝福を確保するのは、すべての贈り物を主のものとして、また主の奉仕に用いられるべきものとして見る時である。あなたに託された所有物を神に返しなさい。そうすればさらに多くのものがあなたに託されるであろう。あなたの所有物を自分に取っておくならば、この世で報いを受けることはなく、来るべき世の報いも失うであろう。」(SDA バイブル・コメンタリー [E・G・ホワイト・コメント] 1 巻 1 巻 1094)

「神殿が建てられた場所は、昔から神聖な場所とされていた。信仰の父アブラハムが、主の命令に従って、彼のひとり子を喜んで献げる精神をあらわしたのは、ここであった。神は、ここで、アブラハムに神の祝福の契約を更新された。それには、至高者のみ子の犠牲によって、人類が救済されるという輝かしいメシヤの約束が含まれていた。」(国と指導者上巻 13, 14)

- b. 子孫の約束はアブラハムの時代においてさえその福音が宣べ伝えられていたことを、どのように示していますか（創世記 22:15-18; ガラテヤ 3:16）。

「この同じ契約は、アブラハムにくり返されて、『地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得るであろう』という約束が与えられた（創世記 22:18）。この約束はキリストを指示したものであった。アブラハムは、このことを理解し（ガラテヤ 3:8,16 参照）、キリストにたよって罪のゆるしを求めた。彼が義と認められたのはこの信仰であった。アブラハムとの契約は、神の律法の権威をも維持した。」(人類のあけぼの上巻 439, 440)

- c. なぜアブラハムが福音の授与者として選ばれ、彼の時代の他の多くの人は選ばれなかったのですか（創世記 26:5; ヤコブ 2:19-24）。

「アブラハムは神を信じた。我々は、彼が信じたということ、どのようにして知ることができるのか。彼の行いが彼の信仰の性質を証明しており、彼の信仰は義とみなされた。」(SDA バイブルコメンタリー [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 936)

5. 旧約の残りの部分における律法

- a. 神が文字通りシナイ山で語られた時(申命記 5:22-26) より前に律法が存在したという例は、他に何がありますか(出エジプト記 15:26; 16:28)。

「イスラエル人は、荒野での長い間の滞在中に、毎週三重の奇跡を目に見たが、それは彼らの心に安息日の神聖さを印象づけるためのものであった。すなわち、六日目には二倍の分量のマナがふり、七日めには全然ふらなかつた。そして、ほかのときには翌日までとっておいたものは食べられなくなっていたが、安息日に必要な分は新鮮なまま保存がきいたのであった。

マナが与えられたときの事情をよく考えてみると、安息日は、律法がシナイで与えられたときに創設されたと多くの人が主張しているが、そうではないという決定的な証拠がみられる。イスラエル人は、シナイに到着する前に、安息日を守らなければならないことを知っていた。安息日には全然降らなかつたので、その準備として金曜日ごとに二倍の分量のマナを集めなければならなかつたことによって、安息日が清いものであることが絶えず心に印象づけられた。安息日にマナを集めに出る人々がいると、神は、『あなたがたは、いつまでわたしの戒めと、律法とを守ることを拒むのか』と言われた(同 16:28)。(人類のあけぼの上巻 343, 344)

- b. 神は語られ、記された道德律である十戒を、イスラエルがどうするよう意図しておられましたか(申命記 6:1-9)。
- c. 主が旧約聖書の終わりまでずっとこの立場を保っておられたということ、どのように知ることができますか(マラキ 4:4; 3:6)。

個人的な復習問題

1. 聖書の歴史の原則は、わたしたち自身の時代にも、どのように当てはまりますか。
2. エデン以来のどの要求が、神は変わることがないことを示していますか。
3. 罪の問題に関連して、イエスがこの世に来られたご目的は何ですか。
4. アブラハムの信仰は、どのように彼の行いによって表されましたか。
5. 神の律法とわたしたちの関係はどうであるべきですか。

永遠の神の律法

暗唱聖句：「神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることである。そして、その戒めはむずかしいものではない。」(ヨハネ第一 5:3)

「〔キリスト〕はご自分がわたしたちを愛してくださったように互に愛し合うようにお命じになった。宗教は、神への愛、すなわち、互いに愛するように導く愛に基づいている。それは感謝、謙遜、忍耐で満ちている。それは自己犠牲的であり、寛容であり、慈悲深く、寛大である。それは生活全体を聖化し、その感化力は他の人にまで及ぶ。」(教会への証 4巻 223)

推奨文献： 人類のあけぼの上巻 352-368

日曜日

2月5日

1. 変わらない創造主

- a. キリストが人の子としてこの地上に生きられた間、神の道德律に対するキリストの関係についてわたしたちは何を悟らなければなりませんか(マタイ 5:17, 18)。
- b. ユダヤの指導者たちは律法を外面的に遵守することに関してどれほど細かい注意を払っていましたか(マタイ 23:23; ペリピ 3:4)。

「〔ユダヤ人指導者〕は聖潔の外観を保つのに熱心だったが、心の聖潔をなおざりにした。彼らは律法の文字についてやかましかったが、絶えずその精神を破っていた。彼らの大きな必要は、キリストがニコデモに説明された変化すなわち霊的新生であり、罪からのきよめであり、知識と聖潔とを新たにされることであった。」(各時代の希望上巻 204)

- c. イエスが律法の違反者ではなかったことを明らかにするこのお方の裁判について、わたしたちは何を目の当たりにすることができますか(マタイ 26:59, 60)。

「救い主も弟子たちも安息日の律法を破られたのではなかった。キリストは律法の生きた代表者であられた。キリストは一生の間律法の聖なる戒めを一つも破られなかった。あかしの国民でありながら、イエスを罪に定める機会をねらっていた彼らをごらんになって、イエスは、『あなたがたのうち、だれがわたしに罪があると責めうるのか』と言われたが、これに挑戦できる者はいなかった(ヨハネ 8:46)。」(同上 371)

2. イエスの心の中にある律法

- a. イエスが地上に来られた時、このお方のために何が用意されていましたか（ヘブル 10:5-10）。

「世の贖い主がご自分の王冠を脱ぎ捨て、王衣をわきへ置き、そしてわたしたちの世に人としておいでになったのは偶然ではなく、ご計画であった。このお方は、ご自分の神性を人性という衣で覆われた。こうしてご自分が人類家族の頭となって、すなわちご自分の人性がアダムの不従順のために墮落した人類と混じり合って立つことができるためであった。」（サザン・ワーク 85）

- b. わたしたちがキリストについて旧約の中で同じ聖句を読むとき、このお方の心の中には何があるようになると預言されていましたか（詩篇 40:6-8）。

「罪、悲しみと死という結果をもたらしたのは律法の違反であった。サタンは神が創造なさった世界と天の知的存在者たちに対して、神の律法を守ることは不可能であるということを証明すると宣言した。アダムが敵の誘惑に屈して、その高く聖なる地位から落ちてしまったとき、サタンとその使たちは勝ち誇った。しかし神の御座から神秘的で重要な言葉を語る声が聞こえた。〔詩篇 40:6 - 8 引用〕。人が墮落した時、キリストは人の身代わりと保証人となられるご自分のご目的を発表なさった。」（レビュー・アンド・ハラルド 1901年9月3日）

- c. わたしたちが心の中にキリストを受け入れるとき、このお方と共に、切り離すことのできない何を受け入れるのですか（詩篇 119:70, 72, 77, 174）。

「奉仕にむすびつけるくびきは神の律法である。エデンであらわされ、シナイで布告され、新しい契約のもとに心にしるされる偉大な愛の律法は働く人間を神のみこころにむすびつけるものである。もしわれわれが自分の好むままに歩み、自分の意志の命ずるところへどこへでも行くままに放っておかれるならば、われわれはサタンの隊列にはいりこみ、サタンの特性を持つ者となるであろう。そこで神は、われわれを高い、とうとい、そして向上させるご自身のみこころにつながるのである。神は、われわれが忍耐強く、賢明に奉仕の義務を負うように望んでおられる。この奉仕のくびきを、キリストは自ら人性をもって負われた。」（各時代の希望中巻 49, 50）

「義は聖であり、神に似ることである。そして『神は愛である』（ヨハネ第一 4:16）。義は神の律法にしたがうことである。なぜなら『あなたのすべての戒めは正し』く（詩篇 119:172）、『愛は律法を完成するものである』からである（ローマ 13:10）。義は愛であり、そして愛は神の光であり、命である。神の義はキリストの中に具体化した。わたしたちはキリストを受けることによって義を受けるのである。」（祝福の山 22）

3. 律法と預言者に従って

- a. イエスが弟子たちにご自分の生活こそご自分がメシヤであられる生きた証拠であることを説明されたとき、どの聖句をお用いになりましたか (ルカ 24:27, 44)。

「彼らの理解を明らかにし、『確実な預言の言葉』の上に信仰を確立させることが、イエスの目的であった。彼は、真理が、単にそれが彼ご自身のあかしによって裏付けられたからだけでなく、型としての律法の象徴と影、そして旧約の預言によって提示されたところの、疑う余地のない証拠のゆえに、彼らの心にしっかりと根をおろすよう望まれた。キリストの弟子たちは、自分たちのためばかりでなく、キリストに関する知識を世界に伝えるためにも、正しい理解に基づいた信仰を持たねばならなかった。イエスは、この知識を分け与える」第一歩として、『モーセやすべての預言者』を弟子たちに示された。旧約聖書の価値と重要性について、復活の救い主がお与えになったのは、このような証言であった。」(各時代の争闘下巻 42, 43)

- b. 弟子たちは福音のメッセージを宣べ伝えながら、どのようにイエスが約束されたお方であることを証明しましたか (使徒行伝 28:23)。

「パウロの語る言葉に神のみ霊が伴い、人々を感動させた。旧約の預言に関する彼の訴えと、これらの預言がナザレのイエスの働きの中で成就されたと述べる言葉には、約束のメシヤの再臨を待ち望んでいる多くの人々を説得する力があつた。そして救いの『よきおとずれ』が、ユダヤ人と同様に異邦人のためでもあるという説教者の確証の言葉は、血縁から言えばアブラハムの子孫の中に数えられていなかった人々に、希望とよろこびを与えた。」(患難から栄光へ上巻 184, 185)

「パウロはテサロニケの人々に説くにあたって、メシヤに関する旧約聖書の預言に訴えた。キリストはその公生涯において、弟子たちの心をこれらの預言に向かって開き、『モーセやすべての預言者からはじめて、聖書全体にわたり、ご自身についてしるしてある事どもを、説きあかされた』(ルカ 24:27)。ペテロはキリストを説くにあたり、自分のあかしの言葉を旧約聖書から引き出した。ステパノも同じ方法をとった。そしてパウロもその伝道において、キリストの誕生、苦難、死、復活、昇天を預言した聖句に訴えた。彼はモーセと預言者たちの靈感のあかしによって、ナザレのイエスがメシヤであることを明白に立証し、アダム時代から父祖たちや預言者たちを通して語ってこられたのは、キリストのみ声であつたことを教えた。」(同上 237, 238)

4. 律法と信仰

- a. わたしたちが、イエスを自分の個人的な救い主として信じる信仰を持つことは、律法を廃しますか。なぜそうですか、あるいは、なぜそうではありませんか（ローマ 3:31）。
- b. 戒めを守る人々にどのような祝福が宣言されていますか（黙示録 22:14）。

「神の戒めへの違反によってアダムとエバに呪いが下り、彼らは命の木に対してあらゆる権利を奪われてしまった。キリストは人を救うために死なれたが、なお神の律法のみ栄を保たれた。『いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、神の戒めを守る者たちは幸いである』。ここで神の御子は命の木にあずかる特権の条件として神の戒めを行うことを提示しておられる。神の戒めの違反が、人から命の木に対するあらゆる権利をはく奪した。キリストが死なれたのは、ご自分の血の功績によって、神の戒めの従順が人を天の祝福にふさわしい者とし、再び命の木にあずかる特権を与えるためであった。」（霊的賜物 3巻 88）

「ガラスの海の上を都の門に向かって進むわれわれを天使たちが、取り巻いていた。イエスは、力強い栄光のみ手をあげて、光り輝くちょうつがいのついた真珠の門を押し開き、『あなたがたは、わたしの血によって、あなたがたの衣を洗い、わたしの真理のために堅くたった。中に入りなさい』とわれわれに言われた。われわれはみな進み入り、都に入る完全な権利が自分たちにあるのだと感じた。」（初代文集 66）

- c. これは神が決して変わらないということをごどのように示していますか（ヘブル 13:8）。

「イエスはもしわたしたちが自分たちの義務を忠実に行うならば、わたしたちのために大いなることをなさるであろう。わたしたちは神のみ旨にわたしたちの意志を明け渡さなければならない。わたしたちはこのお方のすべての戒めを、ささいなことだと言うものでも従うことによって、主を尊ばなければならない。真理は、その聖なる著者のように、その要求において変わることがなく、昨日も今日もそして永遠に同じである。それは人の伝統に調和しておらず、彼らの意見に合わせることもない。真理はいつも神の民と世との間の分離をもたらしてきた。しかし、もし先の数年における特殊な民としてのわたしたちの立場が神に承認されていたとすれば、神はわたしたちの現在の立場をごどのようにご覧になるだろうか。わたしたちが初期の単純さから離れて以来、霊性において進んできたであろうか。」（サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1882年5月25日）

5. 心に書かれる

- a. どのようにイエスが持っておられたのと同じ方法で、わたしたちの生活に神の律法を持つことが可能でしょうか（ヘブル 10:16; 8:10）。

「神は、人類を愛されるから、その聖なる戒めをわれわれにお与えになったのである。罪とがの結果からわれわれをかばうために、神は義の原則をお示しになっている。律法は神の思想のあらわれである。キリストのうちにあつて受け入れられるとき、それはわれわれの思想となる。それはわれわれを生来の欲望や性質の力から高め、また罪にいたる誘惑から高める。」（各時代の希望中巻 13）

- b. この天への旅を始める前でさえ、神はわたしたちの前に何を示しておられますか（ヨハネ第一 4:19, 8）。

「神を曲解したために、この地上は暗くなった。暗黒の影を照し、世の人々を神に呼びもどすためには、サタンの欺瞞（ぎまん）的な力をうち破らねばならなかった。このことは、暴力によってなすことはできないのであった。暴力の行使は神の統治の原則に反する。神は愛の奉仕だけを望まれる。愛を命令することはできない。暴力や権威によって愛を手に入れることはできない。愛は愛によってのみめざめさせられる。神を知れば神を愛するようになる。神のご品性がサタンの品性と対照的に示されねばならない。この働きは全宇宙でただひとりのおかただけができた。神の愛の高さと深さを知っておられるおかただけが、その愛を知らせることができになった。」（各時代の希望上巻 4, 5）

- c. この神の愛がわたしたちの心の中にあつてはじめて、何が可能ですか（ヨハネ 14:15-17）。

個人的な復習問題

1. イエスは人として生きておられた間、どのようにして神のご品性を維持なさいましたか。
2. キリストと同じ品性が、真の信者にどのように現れますか。
3. イエスがメシヤであることを本当に信じるためには、わたしたちはどの預言に徹底的に精通していなければなりませんか。
4. 罪深い人間が罪によって禁じられていた命の木にあずかる権利は、どのように持つことが可能ですか。
5. 真の従順を経験できる唯一の方法は何ですか。

福音の奥義

暗唱聖句：「神は彼らに、異邦人の受くべきこの奥義が、いかに栄光に富んだものであるかを、知らせようとされたのである。この奥義は、あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光の望みである。」(コロサイ 1:27)

「わたしたちは限りない愛と憐れみが無限の力に結びついているのを認めることができるところまで、このお方がわたしたちを扱われる方法、またこのお方を動かす動機を理解することができる。わたしたちは、わたしたちにとって知ることが益となる分だけこのお方のご目的を理解することができる。そしてこれ以上については、なおも全能者の力、御父と万物の統治者の愛と知恵に信頼しなければならない。」(教会への証 5 卷 699)

推奨文献： 教育 169-172

日曜日

2月12日

1. 理解しにくい聖句

- a. ペテロはパウロが書いたもののいくつかについて何に気づいていますか (ペテロ第二 3:14-17)。わたしたちは聖書のいくつかの事柄について何を悟るべきですか (申命記 29:29)。

「能力のある人々が生涯をかけて聖書を探るために研究と祈りを捧げてきた。それでいてなお、聖書の多くの部分は完全には探索されていない。聖書のある聖句は将来の生活でキリストが彼らに説明なさるまで決して完全には理解されないであろう。解明されるべき奥義、人間の思いは調和させられない記述がある。そして敵はこれらの点について議論を起こそうと努めているが、それらは議論せずにおくほうが良いのである。」(福音宣伝者 312)

- b. わたしたちは聖書に対して、どのような態度で接しなければなりませんか (ヨハネ 7:17)。

「あなたが聖書を調べるときに臨む精神があなたのそばにいて助言者の性質を決める。光の世界から来た天使たちは謙遜な心で神聖な導きを求める者と共にいる。しかしもし不敬な態度で、自己満足の気持ちで聖書を開くなら、もし心が偏見で満ちているなら、サタンがあなたのそばにいて、神の言葉の明白な記述を歪んだ光のうちにおくのである。」(牧師への証 108)

2. 秘訣を見極める

- a. 世の他の人々にも分かち合うという目的のために神は具体的に、どのようなことをパウロに明らかになさいましたか（ローマ 16:25, 26; コロサイ 1:27）。

「パウロにとって、十字架は最高の関心をはらうべき唯一の対象であった。パウロは、十字架にかけられたナザレ人に従う者たちを迫害していたさ中に捉えられて以来、ずっと、十字架をあがめつづけてきた。その時、キリストの死に表された、神の無限の愛についての啓示が彼に与えられたのである。そして、彼の人生に驚くべき変化が起こり、彼のすべての計画と目的が天と一致するようになった。その時からパウロは、キリストにある新しい人になった。罪人がみ子の犠牲の中に見られる天父の愛をあおぎ見て、神の感化力に従うとき、心に変化が起こり、それ以後、キリストがすべてであり、すべてのもののうちにおられると悟るようになることを、パウロは個人的な経験から知った。」（患難から栄光へ上巻 264, 265）

- b. もし聖書のどこかが理解するのに難しいとき、なぜわたしたちはその問題を調べようと努めるべきなのでしょう（テモテ第二 3:16, 17）。

「キリストの十字架は非難と汚名に覆われているが、それは今なお人にとって命の希望であり高めるものである。キリストの十字架を負うことを恥じている限り、だれも信心の奥義を理解することはできない。だれでもキリストの従者となるために地上の宝を喜んで犠牲にしない限り、キリストご自身が無限の犠牲を払って人のために買われた祝福を認識し感謝することはできない。キリストのためになされたすべての自己否定と犠牲は、与える人を富ませる。そして、このお方の尊い名のゆえに耐えたすべての苦しみと非難は、栄光の王国における最終的な喜びと永久の報いを増すのである。」（闘争 93）

- c. 正しい結論に至るためにわたしたちに必要なものを説明しなさい（ヨハネ 16:13）。

「聖霊の導きがなければ、わたしたちは常に聖書を曲解したり、間違って解釈しがちである。益のない聖書朗読が多くあり、多くの場合それは明確に害となっている。神のみ言葉を畏敬の念や祈りなくして開く時、思いや愛情が神に固定されていない時、またはこのお方のみ旨と調和していない時、思いは疑いで曇る。そして聖書研究そのものにおいて懐疑心を強められる。敵が思想の支配権をつかみ、そして彼は正しくない解釈を持ちかける。」（教会への証 5 巻 704, 705）

3. 最高の道德律

- a. 一般に信じられていることは反して、十戒の律法が十字架で廃止されたのではないことを、わたしたちはどのように知ることができますか（ヤコブ 2:8, 9）。

「多くの宗教教師たちは、キリストはご自分の死によって律法を廃された、それゆえに人はその要求から解放されている、と主張する。なかには、律法を重苦しくびぎであると言い、律法の束縛とは対照的に、福音の下において自由が享受できると主張する人々もいる。

しかし、預言者や使徒たちは、神の聖なる律法をそのようには見なさなかった。『わたしはあなたのさとしを求めたので、自由に歩むことができます』（詩篇 119:45）。キリストの死後に書いた使徒ヤコブは、十誡を『尊い律法』『完全な自由の律法』と言っている（ヤコブ 2:8; 1:25）。そして、十字架から、半世紀の後に、ヨハネは、『いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、神の律法を行なう者』はさいわいであると言明している（黙示録 22:14 英語訳）。（各時代の大争闘下巻 193）

「人間がキリストに明け渡すとき、その精神は律法の支配を受けるようになるが、それはすべての捕虜に自由を与える王の律法である。キリストと一体になることによって人間は自由とされるのである。キリストの意志に従うことは完全な人間の資格を回復することになる。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 102）

- b. どの律法が、隣人を自分自身のように愛することを定めていますか（ローマ 13:9; 出エジプト記 20:1-17 参照）。

「十戒のはじめの四つは、『心をつくして主なるあなたの神を愛せよ』という一つの大きな戒めに要約される。あとの六つは、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』というもう一つの戒めに含まれる。これらの戒めは二つとも、愛の原則の表現である。第二の戒めを破りながら第一の戒めを守ることはできないし、また第一の戒めを破りながら第二の戒めを守ることもできない。神が心の王座に正当な座を占められるときに、正当な場所がわれわれの隣人に与えられる。われわれは自分自身と同じように隣人を愛するようになる。こうして神を最高に愛するときのみ、隣人を公平に愛することができるのである。キリストは、聴衆に、神の律法は、あるものは非常に重要であるが、あるものはそれほど重要ではないから無視してもさしつかえないといったような、多くの別々な戒めではないということをお教えになった。主ははじめの四つとあとの六つの戒めを聖なる全体として示し、神への愛は神のすべての戒めに従うことによって示されることをお教えになっている。」（各時代の希望下巻 57）

4. 律法によって裁かれる

- a. 人類に対して裁きがどれほど広い範囲に及ぶかを説明しなさい(伝道の書 11:9; ローマ 14:10; コリント第二 5:10; ヘブル 9:27)。

「すべての者は、与えられた光に応じて裁かれる。主は、救いの使命を携えて行く使者をつかわされ、聞く者たちに、神のしもべたちの言葉をどのように扱うかについて責任を負わせられるのである。真理を心から探し求めている人々は、彼らに提示された教理を、神のみことばに照らして、注意深く研究するのである。」(患難から栄光へ上巻 250)

- b. 裁きにおいてどの基準が用いられますか(ヤコブ 2:12)。

- c. これはどの律法ですか(ヤコブ 2:11; 出エジプト記 20 章参照)。

「教えの中で、キリストはシナイから語られた律法の諸原則がどれほど広範囲に及ぶかをお示しになった。このお方はその諸原則が永遠に義の偉大な標準—裁き主が席につき、数々の書物が開かれる大いなる日にすべての人が裁かれる標準—であり続ける律法の生きた生き生きと活用なされたのである。」(ヘレテッド・メッセージ 1 巻 211) 「神の律法が、審判の時に人々の品性と生活を吟味する基準である。賢者は『神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である。神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさばかれるからである』と言っている(伝道の書 12:13, 14)。使徒ヤコブは、兄弟たちに、『だから、自由の律法によってさばかるべき者らしく語り、かつ行いなさい』と勧告している(ヤコブ 2:12)。(各時代の斗争闘下巻 214)

「裁きの座につき、数々の書物が開かれ、そしてすべての人がその書物に書かれている事柄に従って裁かれる時、その日まで神によって隠されていた石の板が、義の標準として世の前に提示されるであろう。そのとき男女は彼らの救いの必要条件は、神の完全な律法への従順であったことを認めるようになる。だれも罪の言い訳はできない。その律法の義なる諸原則によって、人は生か死かの判決を受けるのである。」(ヘレテッド・メッセージ 1 巻 225)

5. 養育掛としての律法

a. 律法を理解し、真理を知る目的は何ですか(ヨハネ 3:18-21; ローマ 7:7)。

「神と和解する第一歩は、罪を認めることである。『罪は不法である。』『律法によっては、罪の自覚が生じるのみである』(ヨハネ第一 3:4、ローマ 3:20)。自分の罪を悟るためには、罪人は自分の品性を、神の義の偉大な標準によって吟味しなければならない。それは、正しい品性の完全さを示して、罪人に自分の品性の欠陥を発見させる鏡である。」(各時代の争闘下巻 195)

b. わたしたちの真の状態を暴露することによって、律法はその啓示で何をするのですか(ガラテヤ 3:24)。

「わたしはガラテヤ書にある律法に関して聞かれる。どちらの律法がわたしたちをキリストに連れて行く養育掛であろうか。わたしは礼典律と十戒の道德律との両方であると答える。

キリストは、ユダヤ制度全体の基礎であられた。アベルの死は、従順という学校における神の計画を受け入れることをカインが拒んだ結果であった。すなわち彼は犠牲の捧げ物によって予表されていたイエス・キリストの血によって救われることを拒んだのである。カインは世の罪のために流されるはずのキリストの血を象徴していたいけにえの血を流すことを拒んだ。この儀式全体は神によって用意され、キリストは制度全体の土台となられた。これは罪深い人間にキリストについて考えるようにさせる養育掛としての働きの始まりである。」(SDA バイブルメンタリー [E・G・ホワイト・コメント] 6巻 1109)

個人的な復習問題

1. 聖書研究において個人的な心の準備はどれほど重要ですか。
2. 救いの福音のように神秘的なものを、どのようにして正しく理解することができますか。
3. 十字架の後も神の律法はまだ効力があると理解する理由は何でしょうか。
4. 永遠の命のための必要条件として偉大な品性の基準は、何ですか。
5. 律法、すなわちわたしたちの無断欠席生徒補導員は、なぜわたしたちをキリストに導く必要があるのですか。

このお方の十字架にくぎづけられる

暗唱聖句：「神は、わたしたちを責めて不利におとしいれる証書を、その規定もろともぬり消し、これを取り除いて、十字架につけてしまわれた。」(コロサイ 2:14)

「十戒の律法は生きており、永遠にわたって生きるのである。犠牲と捧げ物の務めの必要は、キリストの死において型が本体に出会った時に止んだ。彼において影が実体に達した。神の小羊は完全に十分な捧げ物であった。」(SDA パイブルコメント [E・G・初巻・コメント] 6 巻 1116)

推奨文献： セレクト・メッセージ 1 巻 229-235

日曜日

2月19日

1. もう一つの律法

- a. 聖書はわたしたちに反して十字架につけられた律法を、どのように述べていますか(コロサイ 2:14; エペソ 2:15)。十戒の原則はエデンの完全さにおいて存在していたので、この記述がその律法に言及することはあり得ないことを、どのように知ることができますか(創世記 1:31)。
- b. この礼典律に含まれている詳細のいくつかは、どのようなものでしたか(コロサイ 2:16, 21)。これらの安息日やその他の律法は、創造の時に与えられたもとの道徳律に関連していますか—あるいは、それらは、それらが与えられた後に将来訪れる出来事の影でしょうか(コロサイ 2:17)。

「神は、エデンにおいて、第七日を祝福して、創造のみわざの記念となさった。安息日は、全人類の父であり、代表であるアダムにゆだねられた。その遵守は、地に住むすべてのものが、神を創造主とし、自分たちの正当な統治者として認めたことをあらわし、自分たちが神のみ手のわざであり、その権威に従うことを快く認める行為ともならなければならなかった。こうして、この制度は全く記念のために、全人類に与えられたのである。そこには、あいまいな点はなく、ある特定の民だけにかぎられることもなかった。」(人類のあけぼの上巻 23)

2. 礼典律

- a. 後の出来事の影であったこれらの事は、実際に律法として指し示されていますか—もしそうであれば、どのような種類の律法でしょうか（ヘブル 10:1）。

「神の特別な宝と呼ばれる神の民に、律法の二重の制度が特権として与えられた。道德律と礼典律である。一つは世界を造られた生ける神を覚えるように、創造を振り返って指し示している。その神の要求は、すべての時代にあってあらゆる人を拘束するものであり、常にまた永遠に存在するのである。もう一つは人間が道德律を犯したために与えられたもので、犠牲や捧げ物からなる戒めへの服従は、将来の贖いを指し示していた。各々、明白にはっきりと区別されている。」（SDA バイブルコメンタリー- [E・G・ホイト・コメント] 6 巻 1094）

- b. 動物の犠牲は、昔のイスラエルに、来たるべき神の小羊の犠牲を説明する（前兆となる）ものとして教えられましたが、どの点を理解する必要がありましたか（ヘブル 10:2-4, 6）。

「キリストご自身が、ユダヤ制度の礼拝の創始者であられた。そこで、型と象徴において、霊的な天の事柄の影を前方に投げていた。多くの者は、これらの捧げ物の真意を忘れ、キリストを通してのみ、罪のゆるしがあるという偉大な真理を見失った。多くの犠牲の捧げ物、牛や山羊の血を増し加えても、罪を取り去ることはできなかったのである。」（同上 7 巻 933）

- c. 罪の責任から清める唯一の力を持っているのは何ですか（ヨハネ第一 1:7）。

「キリストの血を通してのみ、罪の許しがあるという教訓が、あらゆる犠牲において具体化され、あらゆる儀式において印象づけられ、……教えられた。」（同上）

「人を贖うためのイエス・キリストの死は、幕を上げてユダヤの宗教の制度全体に、何百年もさかのぼって多くの光を投げかける。キリストの死なしには、このすべての制度には意味がなかった。ユダヤ人はキリストを拒み、それゆえに彼らの宗教の制度全体が彼らにとって不明瞭な、説明しがたい、不確かなものとなった。彼らは実体に会った型の影である儀式に、十戒の律法に対するように、大きな重要性を持たせた。その十戒は影ではなく、エホバの御座が永続しているのと同様、現実である。」（同上 6 巻 1097）

3. 儀式制度

- a. このような方法で、動物の犠牲を捧げた最初の人はいずれでしたか（創世記 3:21, 24; 4:2-4; ヘブル 11:4）。

「犠牲の供え物は、神が人間のためにお定めになったもので、罪の悔い改めと約束の贖い主への信仰の告白を、いつまでも思い起こさせるものであった。それは、死をもたらすものは罪であるという厳粛な事実を、墮落した人類に印象づけるためであった。アダムにとって、最初の犠牲をささげることは、非常に心の痛む儀式であった。彼は、神だけが与えることのできる生命を奪うために、手を振り上げなければならなかった。彼が死を見たのはこれが最初であった。もし彼が神に服従していたならば、人間も獣も死ぬことはなかったことを悟った。彼が罪のない犠牲を殺したとき、自分の罪のために、傷のない神の小羊の血を流さなければならないことを考えて、ふるえおののいた。神の愛するみ子の死によらなければ、償うことのできない自分の罪の大きさを、この光景は、さらに深くなまなましく彼に示した。罪を犯した者を救うために、そのような犠牲をお与えになる無限の恵みに彼は驚いた。暗く恐ろしい未来に希望の星が輝いて、それが、全く絶望的になるのを防いだ。」（人類のあけぼの上巻 61）

- b. 民がシナイ山で救いの計画を理解できなかった後、さらにどのような制度が説明されましたか（出エジプト記 25:8）。
- c. なぜ血を流す必要があったのですか（ヘブル 9:22）。犠牲の小羊は何を象徴していましたか（コリント第一 5:7; ペテロ第一 1:19; ヨハネ 1:29）。

「彼は儀式の律法の型と影を通して聴衆をキリスト—このお方の十字架、このお方の祭司職、このお方の聖所でのお働き—ユダヤ人の時代にさかのぼって影を投げかけていた偉大な中心へと導いた。このお方は、メシヤとして、すべての犠牲の供え物の本体であられた。使徒は預言とユダヤ万民の期待に従って、メシヤはアブラハムとダビデの血統であるということを示した。それから彼はこのお方の系図を偉大な父祖アブラハムから、王である詩篇記者を通じてたどった。彼は聖書から約束されたメシヤのご品性とそのお働きが何か、また聖なる預言者たちによって証されていたこの地上での迎えられ方と取り扱いを示した。それから彼はこれらの預言がイエスのご生涯、働き、そして死において成就してきたこと、したがってこのお方が確かに世の贖い主であることを示した。」（パウロの生涯からのスケッチ 103, 104）

4. なぜそれは廃されたのか

- a. 神殿で儀式が絶え間なく行われている限り、イスラエルは自分たちの救いの希望として何を信じましたか（イザヤ 1:10-15）。

「神の御子はすべての時代を網羅する偉大な贖いの中心であられる。このお方は『世の初めからほふられた小羊』であられる。このお方は人の恩恵期間の各時代において、墮落したアダムのむすこ娘たちの贖い主であられる。…キリストはかつての時代へとさかのぼって影を投げかけるものの実体あるいは本体であられる。キリストが死なれた時、影は終わった。キリストの死によって象徴的な制度は廃されたが、神の律法、すなわちその違反のために救いの計画が必要になった律法は、大いなるものとされ、かつ尊ばれた。福音はアダム、ノア、アブラハム、そしてモーセにとって大いなる喜びのよきおとずれであった。それは彼らに來たるべき救い主を提示していたからである。」（*サイズ・オブ・ザ・タイムズ* 1893年2月20日）

「エルサレムはユダヤ人の中心地であり、そこには大きな排他性と頑迷な偏狭さが見られた。神殿の目の前に住んでいたユダヤ人のクリスチャンたちは自然と、自分たちの思いが国家としてのユダヤ人特有の特権へ逆戻りすることを許してしまうのであった。彼らはキリスト教がユダヤ教の儀式や伝統から離れて行くのを見、またユダヤの慣習に持たされていた固有の神聖さが新しい信仰の光に照らされてまもなく失われようとしていることを感じて、多くの者は大いにこの変化を引き起こした張本人としてパウロに憤慨するようになった。……ある者は礼典律に熱心であった。」（*パウロの生涯からのスケッチ* 71）

- b. すべての犠牲の代わりに、神は何を求めておられましたか（イザヤ 1:16-18；詩篇 51:17-19）。
- c. イエス・キリストの血による救いの計画は、犠牲制度ではなし得なかった何をもちましたか（使徒行伝 4:12；ヘブル 7:28, 19）。

「もっと明瞭な栄光に輝く光が今クリスチャンを照らしている。キリストの來臨前に生きた人々は

信仰によってこのお方の來臨を待ち望んでいたが、彼らが信仰によってつかまなければならなかったものがわたしたちにとっては保証である。なぜなら、わたしたちは預言者によって預言されていたようにキリストが來られたことを知っているからである。古代の人々が供え物と犠牲によって表されていた來たるべき贖い主を信じることが重要不可欠であったように、わたしたちにとって、この世に來られわたしたちの犠牲となり死なれた贖い主を信じる信仰を持つことが不可欠なのである。」（*サイズ・オブ・ザ・タイムズ* 1893年2月20日）

5. 今日儀式の律法は必要か

- a. なぜ聖書の中に礼典律が記録されているのですか (テモテ第二 3:16)。
- b. イエスは今日天において何をなさっておられますか (ヘブル 8:1-5; 3:1)。
- c. この新しい制度が天において大いに活発に実行されているの間にわたしたちは何をすべきでしょうか (ヘブル 4:14-16)。

「弟子たちに彼らがまさに必要としているもの—彼らが不可欠なものとしてこれまで没頭し、福音を受け入れることによって力をすでに失っていた慣例や儀式から彼らを解放するもの—を残すことがキリストの願いであった。すでに失われたこれらの慣例を継続することは、エホバであられるお方に対して侮辱であった。」(SDA パブルメント—[E・G・ホイト・コメント] 5巻 1139, 1140)

「十字架の使命者たちは、たえず目を覚まして祈りで身を固め、常にイエスのみ名によって働き、信仰と勇気をもって前進しなければならない。彼らはキリストを、天の聖所における人類の仲保者として、旧約聖書のすべての犠牲制度の中心である救い主として、あがめなければならない。そのかたのあがないの犠牲を通してこそ、神の律法を犯した罪人が平和とゆるしを見いだすことができるのである。」(患難から栄光へ上巻 248)

個人的な復習問題

1. 七日目の安息日が旧約の影に含まれていないということを、どのように知ることができますか。
2. 道徳律と儀式の二つの律法の際立った特徴は何ですか。
3. あまりにも多くの死があったために、わたしたちは動物が死んだ時にどのような態度を失ってしまったのですか。
4. 神殿の近くに住んでいたユダヤ人にとって、犠牲制度が終わった事を理解するのを難しくしたのは何ですか。
5. 聖所の奉仕を研究することから、今日わたしたちはどのような恩恵を受けますか。

第一安息日献金

北インド連合、パタンコットの礼拝堂のために

パタンコットは、インドのパンジャブ州にある都市です。西はパキスタンと国境を接し、パンジャブ州、ヒマカル・プラデシ、またジャムとカシミールの交通の中心地となっています。

改革のメッセージは 2015 年にここに伝えられ、わたしたちの教会員数は数年を経てのびています。安息日聖書教科の発行により、多くの尊い新しい魂が熱心に現代の真理を求めています。

2011 年現在で、パタンコット近郊外には 159,909 の人口があり、識字率は 88.71% でした。そこはシヴァリク山脈（ヒマラヤ山脈の裾野の一部）とチャッキ川に囲まれています。パタンコット近くの有名な場所には、観光客のためにつるされた休憩宿のあるシャプール・カンジ、またランジット・サガル・ダムにはアジアで最も重力の高いダムがあります。近郊における産業には、乳業、小麦、稲作、織物工業、ミシン、スポーツ用品、砂糖、スターチ、肥料、自転車、科学用品、電気製品、機械工具、また松油があります。



パタンコットの宗教は、ヒンズー教 88.89%、シク教 8.01%、そしてキリスト教 1.73% で、その後にはイスラム教や他の宗教が続きます。

カングラとダルハウジーの絵のような裾野に位置しており、近くにはチャッキ川が流れ、この都市はしばしばジャムやカシミール、ダル・ハウジー、チャンバ、カングラ、ダルムサーラ、マクレオダンジ、ジャワラジ、チンブルニへ、またさらに遠くヒマラヤへ向かう前に休憩する場所として用いられています。近隣州の多くの地方学生が教育のためにパタンコットへやってきます。

パタンコットは、インドの他の場所と列車や道路でよくつながっており、パンジャブ、ヒマチャル・プラデシ、デリー、ハルヤナ、ジャム、カシミールにある他の諸都市への私バスや公共バスの広大なネットワークによってつながっています。重要な目的地には、デリー、マナリ・チャンディガル、ジャム、ダラムサラ、ダルハウジー、アムリスタルが含まれています。

そのため、イエスの時代のカペナウムのように、パタンコットは旅行者の交差点としての役割を果たしています。これにより、伝道の可能性が高いです！わたしたちには自分たちで土地を購入し、教会を建てるだけの資金がありません。そこで、世界中の兄弟姉妹がたの援助が必要です。インド・パタンコットに主のための記念碑を建設するため、皆さんの惜しみない献金を、どうぞ送ってください。「神は喜んで施す人を愛して下さるのである」（コリント第二 9:7）。この希望をもって、主イエスに各自を豊かに祝福して下さるよう、お祈りいたします。

パタンコット教会から皆さんの兄弟姉妹より

もしわたしたちが告白するならば

暗唱聖句：「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、彼は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。」(ヨハネ第一 1:9)

「神にあなたの罪を告白しなさい。このお方だけが罪をお許しになることができるのである。そしてあなたのあやまちを互いに告白しなさい。」(キリストへの道 45)

推奨文献： キリストへの道 22-41, 46-51;
教会への証 5巻 635-650

日曜日

2月26日

1. 新約も旧約も同じ方法

- a. 神は変わらないので(マラキ 3:6, ヘブル 13:8)、このお方がお造りになったすべての魂の救いに関するこのお方の願いについて、わたしたちは何を悟らなければなりませんか(詩篇 78:38; エゼキエル 18:32; ペテロ第二 3:9)。

「〔神〕はだれも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに至ることを望んでおられる。……正義の剣は、彼らが自由になることができるために、〔キリスト〕の上を下った。このお方は彼らが生きることができるようになられた。」(神の驚くべき恵み 326)

- b. ソロモンが建てた神殿の献堂式の時に、旧約のどの偉大な聖句が、神が喜んでお許しになることを宣言しましたか(歴代志下 7:12-14)。これはどのように新約聖書の中にもこだましていますか(ヨハネ第一 1:9; 2:1)。

「個人的な性質の罪は、神と人との間の唯一の仲保者キリストに告白されるべきである。……すべての罪は神に対する侮辱であり、キリストを通して神に告白されなければならない。すべて公の罪は公に告白されるべきである。同胞に対してなされた過ちは、害を受けた人と関係が回復されるべきである。もし健康を求めている人が悪口を言う罪を犯していたなら、家庭や近隣や、あるいは教会に不和をまき、疎遠や紛争をかきたて、間違った習慣によって他の人を罪に陥らせたりしたことがあるなら、これらのことは神の前でまた害を受けた人々の前で告白されるべきである。」(福音宣伝者 216, 217)

2. 許しを受ける際の最初の一步

- a. 聖霊の働きは心に罪の自覚をもたらすことであるため(ヨハネ 16:8)、わたしたちの最初の応答は何であるべきですか(詩篇 86:5)。

「罪の自覚が思いと心をとらえる。罪人はエホバの義を自覚し、自分自身の罪と汚れのうちに、心を探られるお方の目にあらわれることに恐れを感じる。彼が神の愛、聖潔のうるわしさ、純潔の喜びを認める。彼はきよめられること、そして天との交わりに回復されることを切望する。」(キリストへの道 24)

「人の心に神の恵みが働く結果生じる悔い改めは、罪の告白と放棄に至らせる。パウロは、コリントの信者たちの生活にこのような実が実ったと言ったのである。」(患難から栄光へ下巻 2, 3)

- b. ペンテコステの日の例を見ると、良心が罪の自覚に目覚めた結果として何が起こりましたか(使徒行伝 2:36, 37)。

「初期の弟子たちがペンテコステの日に聖霊が注がれる準備をしたのは、罪を告白し捨て去ること、神への熱心な祈りと献身によってであった。同じ働きが、より大きな度合いで、今なされなければならない。」(牧師への証 507)

- c. 生活の変化に導く罪の自覚の結果を、わたしたちはどのように述べることができますか(使徒行伝 2:38)。

「〔イスラエル人〕は、真の平和が与えられる前に、その犯した罪を認めて、告白しなければならなかった。」(人類のあけぼの下巻 281)

「真の告白は常に詳細な性質をもち、はっきり特定の罪を認める。神にだけ持ち出すべきものもあるであろう。または、それらを通して苦しんだ個人の前に告白しなければならぬものもあろう。あるいは民の会衆の前で知られるべき一般的な種類のものかもしれない。しかし、すべての告白ははっきりとその要点にふれていて、犯した罪そのものを認めねばならない。」(教会への証 5 巻 639)

3. 偽りの悔い改めの事例

- a. ユダは祭司長たちにキリストを裏切ったことを悔い改めましたか（マタイ 26:14-16, 47-49）。なぜですか、あるいはなぜそうではありませんか（マタイ 27:3, 4）。

「ユダは、こんどはイエスの足下に身を投げて、イエスが神のみ子であることを告白し、どうかご自分を救ってくださるようにと嘆願した。救い主はご自分を裏切った者を責められなかった。主はユダが悔い改めていないことを知っておられた。彼の告白は不義の魂に迫られ、自分の罪についての自覚とさばきを恐れる思いから出たものであった。彼は自分が罪のない神のみ子を売り渡し、イスラエルの聖者をこぼんだことについて、心の底からの深い悲しみを感じていなかった。しかしイエスは、非難のこぼれを出されなかった。主は、あわれみをもってユダをごらんになり、この時のためにわたしは世にきたのだと言われた。」（各時代の希望下巻 225）

「罪のために道徳的知覚が鈍くなってしまうと、悪を行う者は自分の品性の欠陥を認めもしなければ、自分が犯した罪の恐ろしさを悟ることもない。罪を示す聖霊の力に従わなければ、人は自分の罪に対して部分的の盲目のままである。その人の告白はまじめでもなければ熱心でもない。自分の罪を認めて悪かったとは言うものの、そのたびに自分の行為に弁解をつけ加え、ああいう事情さえ起らなかったら、自分はああもしなかったしこうもしなかったし、なにもしかられることはなかったのだと言うのである。」（キリストへの道 49, 50）

「信仰と祈りによって、すべての人は福音の必要条件を満たすことができる。だれ一人として罪に強制されることはできない。彼自身の同意が最初に得られなければならない。情熱が理性を支配し、不義が良心を征服する前に、魂は罪深い行為を目的としなければならない。罪の誘惑がどれほど強くとも罪の言い訳にはならない。」（教会への証 5 巻 177）

- b. これが永遠の命に導く悔い改めの種類であったかそうではなかったかを説明しなさい（マタイ 27:5; コリント第二 7:8-11）。

「多くのものが自己欺瞞に陥っており、主が関与しておられない計画に入りこんでいる。しかし追い求めるべき唯一の安全な道は、主のみ言葉に従うことである。これを行う代わりに、多くの者は何か素晴らしいことをするのを目的とする。彼らは自己を空にし、神に心、思い、意志を明け渡し、創造し破壊することのできる力によって形造られるために屈服するよりも、将来のために何か大きなことを計画するほうがたやすいと感じる。青年たちに彼らの動機を、祈りと聖書の研究によってじっくりと調べさせ、そして自分たちの意志と傾向が神のご要求からそれていないかを確認させなさい。」（ユース・イン・ストラクター 1893 年 3 月 23 日）

4. 真の悔い改めの模範 (詩篇 51 篇)

- a. 神の前で自分の罪を認めず、それについて沈黙を守っているとき、何が起こりますか (詩篇 32:3, 4)。
- b. 預言者ナタンがダビデの罪を単刀直入に表した後、(サムエル記下 12:1-12)、王はどのように答えましたか (サムエル記下 12:13)。

「預言者の譴責は、ダビデの心を感動させた。良心は目ざめた。彼の罪がどんなに憎むべきものであるかが明らかにされた。彼は、神の前に悔い改めおれた。」(人類のあけぼの下巻 420)

「ダビデは、心から深く悔い改めた。彼は、自分の罪の弁解をしようとはしなかった。彼は、自分に下る刑罰からのがれようと望まずに、神に祈りをささげた。しかし、彼は、神に対する自分の罪の大きさを認めた。彼は、自分の心の汚れを悟った。彼は、自分の罪を嫌悪した。彼が祈ったのは、ただ許されることだけでなく、心が清められることであつた。ダビデは、絶望して苦闘を放棄することをしなかった。悔い改める罪人に対する神の約束の中に、許されて受け入れられる証拠を彼は見たのである。」(同上 428)

- c. どのようにこのことがベタニヤのシモンの心にも起こりましたか (ルカ 7:40-48)。平和と和解を得させる唯一の方法は何ですか (詩篇 32:5; エレミヤ 3:13; ヨハネ第一 1:9)。

「ナタンがダビデに対してそうしたように、キリストは譬のヴェールの下に急所を突くことばをかくされた。キリストは、自分自身に宣告をくだす責任を主人のシモンに負わせられた。シモンは、自分がいま軽蔑している女であつた。マリヤはシモンからひどく悪いことをされたのであつた。シモンとマリヤは、譬の中の金を借りたふたりに代表されていた。イエスは、このふたりが異なつた程度の義務を感じなければならぬことを教えようとは考えておられなかつた。なぜならふたりともそれぞれ決して返すことのできないほどの感謝という負債を負っていたからである。しかしシモンは、自分の方がマリヤよりも正しいと思つていたので、イエスは、彼の不義が実際にどれほど大きいものであるかを彼にみとめさせようと望まれた。五百デナリの借金が五十デナリの借金よりも大きいように、シモンの罪はマリヤの罪よりも大きいということを、イエスは、シモンにお示しになりたかつたのである。

シモンはいま自分自身を新しい光の中で見はじめた。…彼は恥づかしさにおそわれ、自分よりもすぐれたおかたの前にいることに気がついた。…

シモンは、イエスが自分を客たちの前で公然と非難されなかつた親切さに、心を打たれた。…忍耐深い教えによつて、彼は自分の誤りをさとつた。彼は自分が主に対して大きな負債を負っていることを知つた。彼の高慢心はへりくだり、彼は悔い改めた。そしてこの高慢なパリサイ人は、けんそんで、自己犠牲的な弟子となつた。」(各時代の希望中巻 393-395)

5. 許しの賜物

- a. もしわたしたちが不法のうちに深く巻き込まれていたとしても、どのようにしてわたしたちは自分たちの罪に対する深い本当の悲しみに導かれることができますか（使徒行伝 5:30, 31; イザヤ 55:6, 7; ヘブル 4:16）。

「このような悔い改めは、自分の力ではとてもできるものではない。これは天にお上りになって、人類に聖霊の賜物を与えたもうキリストによるほかないのである。」（キリストへの道 27）

「もし、自らの罪深いことに気づいたならば、自分でよくしようなどと思って待つてはならない。自分はキリストの許に行くほど善良でない、とと思っている人がなんと多いことであろう。自分の努力でよくなれるとでも思っているのであろうか。『エチオピアびとはその皮膚を変えることができようか。ひょうはその斑点を変えることができようか。もしそれができるならば、悪に慣れたあなたがたも、善を行うことができる』（エレミヤ書 13:23）とある。わたしたちの助けは、ただ神のうちにのみある。もっと強い確信、もっといい機会、あるいは、もっときよめられた性質を持つまで待つてはならない。わたしたちは自分の力ではなにもできないのであるから、ありのままキリストに行くほかはないのである。」（同上 35, 36）

- b. この神の働きがわたしたちのために、またわたしたちのうちにどれほど完全になされることを期待できるでしょうか（ヘブル 12:12; ペリピ 1:6）。

「悔い改めと同様に許しも、キリストを通しての神の賜物である。わたしたちが罪を自覚させられ、許しの必要を感じるのは聖霊の感化を通してである。悔い改めた者だけが許される。しかし心を悔い改めさせるのは神の恵みである。このお方はわたしたちの弱さと欠点をすべてご存じであり、わたしたちを助けてくださるのである。」（セクレット・メッセージ 1巻 353）

- c. この種の真の告白の結果は、どのようになるでしょうか（ローマ 8:1）。

個人的な復習問題

1. 神殿の献堂式の時のソロモンの祈りから、わたしたちは個人的に何を学ぶことができますか。
2. 後の雨の力の下で神のみ働きを終わらせるのに携わりたいなら、どのような段階を真剣に踏む必要がありますか。
3. わたしたちの罪を神に告白する必要があるのはなぜですか。罪を犯すという行為において、わたしたちは実際どれほどの責任がありますか。
4. だれかにその人が有罪であることを示すのに、わたしたちはどれほど慎重である必要がありますか。
5. どのように罪人が悔い改めることが可能になりますか。

真理によって彼らを聖別して下さい

暗唱聖句：「正しい者の道は、夜明けの光のようだ、いよいよ輝きを増して真昼となる。」(箴言 4:18)

「わたしたちが自らを完全に神に明け渡し、完全に信じるとき、キリストの血はすべての罪から清めるのである。良心は有罪宣告から自由になれる。このお方の血への信仰を通して、全ての者はキリスト・イエスにあつて完全にされる。わたしたちが不可能なことを扱っているのではないことを神に感謝する。わたしたちは聖化を求めることができる。わたしたちは神の恩寵を楽しむことができる。わたしたちはキリストと神がわたしたちについてどう思っておられるかを案じるのではなく、神がわたしたちの身代わりであられるキリストについてどう思っておられるかについて気にしなければならない。」(セレクトド・メッセージ 2巻 32, 33)

推奨文献： 患難から栄光へ下巻 260-270

日曜日

3月5日

1. 義認

- a. わたしたちが真に自分の罪を告白し、生活をイエスに明け渡すとき—それが自分のクリスチャン経験の始めでも、または道中の一步ごとであっても—わたしたちは神から何を受けるでしょうか(ローマ 3:24-26)。

「罪に陥る前、アダムは神のおきてに服従することによって、正しい品性をつくり上げることができたが、かれはこれに失敗し、かれの罪のために、わたしたちは生れながら罪あるものとなり、自分の力で義となることはできなくなった。わたしたちは罪深く汚れているので、きよいおきてに完全に従うことができない。神のおきての要求に応じうる義を持ちあわせていない。けれどもキリストは、わたしたちのために逃れる道を備えてくださった。キリストは、この地上でわたしたちが会わねばならない試練と誘惑のまっただ中で生活し、罪のない生涯をお送りになった。そして、わたしたちのために死に、今やわたしたちの罪を取り除いて、ご自分の義を与えようとしておいでになる。もし自分をキリストにささげ、キリストを自分の救い主として受け入れるならば、その生涯はこれまでいかに罪深いものであっても、かれのゆえに義とみなされるのである。キリストの品性があなたの品性の代りとなり、神の前に全然罪を犯したことの無いものとして受け入れられるのである。」(キリストへの道 81, 82)

- b. この旅路はどのぐらい続きますか(箴言 4:18; マルコ 13:13)。

2. クリスマンの恵みを生かす

- a. 許し、あるいは義認に加えて、神はわたしたちに何を与えたいと思っておられますか（コリント第二 7:1；ヘブル 6:1；ピリピ 3:12-14）。

「ヨハネの生涯に見られるような品性の変化は、常にキリストと交わっていたために与えられたものである。人にはそれぞれ性格に目立つ欠点があるかもしれない。しかしその人が、キリストの真の弟子になると、神の恵みの力により変えられ、きよめられるのである。彼は主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、崇拝する主と同じ姿に変えられていく。」（患難から栄光へ下巻 262）

「キリストの恵みなしには、罪人は希望のない状態である。何も彼のためにできることはない。しかし神聖な恵みを通して、超自然的な力が人に与えられ、思いと心と品性のうちに働く。罪がその憎むべき性質のうちに認められ、ついに魂の宮から追い出されるのはキリストの恵みが与えられることによってである。」（セクレット・メッセージ 1 巻 366）

「人の心を生まれ変わらせ、魂にキリストの愛を吹き込むことができるのは、神聖な力だけである。その愛はいつもキリストがそのために死なれた人々のために自ずとあらわれる。御霊の実は愛、喜び、平和、忍耐、善意、信仰、柔和、自制である。人が神に改心するとき、新しい道徳的な嗜好が与えられ、新しい原動力が与えられ、神が愛されるものを愛するようになる。なぜなら、彼の命はイエスの命に不朽の約束という黄金の鎖によって結ばれているからである。愛、喜び、平和、そして言い尽くせない感謝が魂に浸透する。そして、祝福された人の言葉は『あなたの助けはわたしを大いなる者とされました』となるのである（詩篇 18:35）。」（同上 336）

- b. 天の御国への道において、わたしたちが必要とするクリスマンの恵みを生かすのに、どのような段階がありますか（ペテロ第二 1:5—11）。

「キリスト、地を天と結ぶお方は、はしごであられる。その土台はこのお方の人性のうちにしっかりと地に据えられている。その最上段はこのお方の神性のうちに神のみ座に達している。キリストの人性は墮落した人類を抱き、このお方の神性は神の御座をつかんでおられる。わたしたちは一步一步はしごを昇り、キリストを仰ぎ、キリストにしがみつき、キリストの高さにまで一步一步上っていくことによって救われる。こうして、このお方はわたしたちにとって知恵と義と聖とあがないとになられるのである。」（教会への証 6 巻 147）

3. 神のみ言葉を通しての力

- a. 神はどのようにわたしたちの思いを啓発し、それによってクリスチャンの成長が着実に進むようになるのですか（コリント第二 4:4-6; 詩篇 119:105; レビ記 20:7, 8）。

「人間の意志が、神の意志と協力すると、どんなことでもできるようになる。神がお命じになったことは、神の力によって完成することができる。神のお命じになることはどんなことでも、成しとげることができるのである。」（キリストの実物教訓 307）

「品性の完全は、キリストがわたしたちにとって何であられるかに基づいている。もしわたしたちが絶えず救い主の功績に依存して、み足のあとを歩くなら、わたしたちは主のように清らかで、汚れのない者になるのである。

わたしたちの救い主は、どの魂にも不可能なことを要求なさない。このお方は弟子たちに、ご自分が実行するための恵みや力を喜んで与えようとするところだけを期待なさるのである。主は、非常に高く聖なる特権を与えようと思っておられる者たちに、意のままに授ける一つ一つの恵みの完全さをお持ちでないなら、彼らに完全になることをお求めにはならなかったのである。主はご自分に求める者たちに、両親がその子供によい賜物を与える以上に喜んで聖霊を与えるとわたしたちに保証しておられる。」（彼を知るために 130）

- b. み言の力を通して真理のうちに成長するクリスチャンのこの過程を、わたしたちは何と呼びますか（ヨハネ 1:14; 17:17）。

「真理が生活の中の不動の原則になるとき、魂は『朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変ることのない生ける御言によ』って『新たに生れ』る。この新生は、キリストを神のことばとして受け入れた結果である。聖霊によって神の真理が心に刻まれると、新しい思いが喚起され、これまで眠っていた力が呼びさまされて神と協力する。」（患難から栄光へ下巻 219）

「教会のきよめは、神の民に対して神がなされるすべてのわざの目的である。神は彼らがきよくなるように、永遠の昔から彼らを選んでおられた。神は彼らのためにみ子のいのちを犠牲にされた。それは彼らが真理に従順に従うことによってきよめられ、自己の偏狭さをすべて脱ぎ捨てるためである。神は彼らに個人的な働き、個人的な屈服を要求される。彼らが神のかたちに似たものとされ、み霊によって支配されるときはじめて、神は信仰を告白する著たちによってあがめられることができる。そして後、救い主の証人として彼らは、彼らのためになされた神の恵みを知らせることができる。」（同上 262, 263）

4. 虚偽の主張

- a. 聖書の時代を通じて神の聖なる人々のことを考えると、最終的な勝利を主張することについてわたしたちは何を理解しなければなりませんか（ヨハネ第一 1:8, 10; ローマ 7:18; ガラテヤ 6:14）。

「ダニエルに授けられた栄誉は王国の有力者たちの嫉妬心を刺激した。総監および総督たちは彼に対して不平を言う機会を見つけようとしていた。『訴えるべきなんの口実も、なんのとがをも見いだすことができなかった。それは彼が忠信な人であって、その身になんのあやまちも、とがも見いだされなかったからである』（ダニエル 6:4）。

ここにすべてのクリスチャンにとってのなんという教訓が提示されていることであろう。嫉妬の鋭い目が来る日も来る日もダニエルに向けられていた。彼らの監視は憎しみによって鋭敏にされていた。しかしながら彼の生活の言葉にも行為にも悪く見せられるものがなかった。それにもかかわらず彼は聖化されているとは主張せず、かえって、それより限りなくすぐれたことをした。すなわち、忠実と献身の生活を送ったのである。」（聖化された生涯 42）

「偽りの聖化は聖書からまっすぐ遠ざかるように導く。宗教は作り話へと引き下げられる。感情や印象がその尺度となる。彼らは自分たちには罪がないと公言し、自分たちの義を自慢する一方では、聖化を主張する者たちは、人は神の律法を自由に破ることができ、またその規則に従う者は恵みから落ちていと教えるのである。律法の要求を提示することは、彼らの反対を呼び起こし、怒りと軽蔑をかきたてる。このようにして彼らの品性が明らかにされる。『肉の思いは神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないのである』（ローマ 8:7)。（信仰と行い 53）

- b. 聖化の必要性を信じることは、わたしたちが自分の救いを獲得しなければならないという意味でしょうか（ヨハネ 14:15; ヨハネ第一 3:5, 6）。

「義はその根を信心の中に持っている。人が神への信仰を持ち、このお方との生きたつながりを保っていない限り、義である人はいない。野の花が土に根を張るように、それが空気、露、雨、日光を受けなければならないように、わたしたちも神から魂に命を与えるものを受けなければならない。わたしたちが神の戒めに従う力を受けるのは、このお方の性質にあずかるものになることによってのみである。自分の高い者も低い者も、経験のある者もない者も、神のうちにキリストと共に隠されていなければ、だれひとり自分の同胞の前で純粋で力強い生活を着実に維持することはできない。人々の間での活動が活発であればあるほど、神との心の交わりはもっと緊密であるべきである。」（教会への証 7 巻 194）

5. 聖化についてはどうであろうか

- a. 聖化—すなわちクリスチャンの品性における成長—は、通常それが起こっている人が気づくものですか（マルコ 4:26-29）。他の人はどうですか。

「きよい生活の、気取らない無意識の感化は、キリスト教のために与えることのできる最も説得力のある説教である。議論は、たとえそれが相手に反論の余地を与えないものであっても、なお反対しか引き起こさないことがある。しかし敬虔な模範は、完全には抵抗できない力を持っている。」（患難から栄光へ下巻 209）

- b. この成長が継続的なものであり、わたしたちは自分の進歩や達成に決して満足して安んじることができないことを、何が示していますか（コリント第一 15:31；マタイ 10:22；ペリピ 3:12-16）。

「主はご自分のむすこ、娘たちのすべてを幸福で、平和にみち、従順なものにさせて下さる。……信仰によって、品性の欠陥がすべて補われるのであり、すべての不潔なものがきよめられ、欠点がなおされ、長所がのびされるのである。」（同上 267）

「きよめは、一瞬、一時間、一日だけの働きではなく、一生の働きである。それは感情の幸福な高揚によって得られるのではなく、絶えず罪に死に、絶えずキリストのために生きることの結果である。弱々しい、時たまの努力では、間違いを直すことも、品性を改善することもできない。長い、忍耐強い努力と、苦しい訓練と、断固たる戦いによってのみ、われわれは勝利することができる。われわれは次の日の戦いがどんなにきびしいものになるかを知らない。サタンが支配しているかぎり、われわれは自我を静めて、絶えずつきまとう罪にうち勝たねばならない。生きていくかぎり、留まる場所もなければ、完全にやり遂げたと言えるところもない。きよめは生涯の服従から生じるものである。」（同上 263, 264）

個人的な復習問題

1. 義認の毎瞬間に関して、わたしたちは神からどのように扱われていますか。
2. 神はわたしたちに対するご自分の願いが単なる許し以上のものであることを、どのように示しておられるでしょうか。
3. 聖化の秘訣は何ですか。
4. 偽りの聖化は、わたしたちを何から導きそらせますか。
5. 聖化には一生涯の継続的な成長が含まれていることを、どのように知ることができますか。

古い契約

暗唱聖句：「主は言われる、見よ、わたしがイスラエルの家およびユダの家と、新しい契約を結ぶ日が来る。」(ヘブル 8:8)

「神は宿営で何がなされているかをごらんになった。このお方は神の栄光がまだシナイにとどまっている間でさえ、民がサタン誘惑に屈し、彼らが従うと約束した規則に対して陰謀を企てているのをご覧になった。」(ユース・イン・ストラクター 1901 年 11 月 21 日)

推奨文献： 人類のあけぼの上巻 439-443

日曜日

3月12日

1. 奴隷制度は思いを混乱させる

- a. イスラエルは長年にわたってどのような状態でしたか。またその状態は神とこのお方の律法に関する彼らの知識にどのような影響を与えましたか (出エジプト記 20:1, 2; 申命記 5:15)。

「人々は、その奴隷時代に、神に関する知識と、アブラハムに与えられた契約の原則の大部分を忘れてしまっていた。神は、彼らをエジプトから救出し、神の力と恵みを彼らにあらわし、彼らが、神を愛し、信頼するようになることを望まれた。神は、彼らを紅海にお導きになった。そこでエジプト人の追跡によって、彼らは全く逃げ場を失ってしまった。それは彼らが自分たちには全く力がなく神の助けの必要なことを悟るためであった。このようにしてのちに、神は彼らを救い出されたのである。こうして、彼らは神に対する愛と感謝に満たされ、神が彼らを救う力を持っておられることを確信した。神は、地上の奴隷生活からの救済者として、ご自分を人々に結びつけられた。しかし、さらに大きな真理を彼らの心に深く印象づけなければならなかった。彼らは、偶像礼拝と腐敗のなかで生活していたので、神の神聖さと、自分たちの心のはなはだしい罪深さと、自分たちの力だけでは、神の律法を守ることができないこと、そして、彼らには、救い主が必要であることを真に自覚していなかった。こうしたことを、すべて、彼らは学ばなければならなかった。」(人類のあけぼの上巻 441)

- b. 彼らが神の律法の聖潔と神聖さを理解できるように、神は彼らをどこへ連れて行かれましたか (出エジプト記 19:1, 5, 6)。

2. 罪の罪深さ

- a. イスラエル人は神によって語られたときに律法を理解した後でさえ、祝福の約束に対してどのように反応しましたか (出エジプト記 19:8; 24:3)。

「人々は、自分たちの心の罪深さと、キリストの助けがなくては神の律法を守ることができないことを自覚しなかった。そして、彼らは直ちに神と契約を結んでしまった。彼らは、自分たちの義を確立することができると感じて、『わたしたちは主が仰せられたことを皆、従順に行います』と宣言した (出エジプト記 24:7)。彼らは、恐るべき威光のうちに律法が宣言されるのを見、山の前で恐れおののいた。しかし、それにもかかわらず、その後わずか数週間しかたないうちに、彼らは神との契約を破り、偶像にひざまずいて礼拝したのである。彼らは、契約を破ってしまったために、神の恵みを受けることは望めなくなった。そして、今、自分たちの罪深さと、ゆるしの必要を認めた彼らは、アブラハムの契約にあらわされ、そして、犠牲のささげものによって示された救い主の必要を感じるようになった。彼らは今、信仰と愛によって、罪の奴隷からの救い主としての神に結びつけられた。こうしてこそ、彼らは新しい契約の祝福を感謝する用意ができたのである。」 (人類のあけぼの上巻 441, 442)

- b. この契約の条件は何でしたか (申命記 27:26; エゼキエル 20:11; レビ記 18:5)。
- c. わたしたちの生来の状態と同様に、彼らは何を理解できなかったのでしょうか (エレミヤ 17:9; イザヤ 1:5, 6; 64:6)。

「『あなたがたは主に仕えることはできないであろう。主は聖なる神であり、……あなたがたの罪、あなたがたの何がを、ゆるされないからである』とヨシュアは言った。真の改革が伴われるに先だって、人々は、自分たちの力だけでは、神に従うことが全く不可能であることを自覚しなければならなかった。彼らは律法を犯したために、罪人とされ、なんののがれる道も与えられなかった。彼らが自分自身の力と義にたよっているかぎり、罪の許しを得ることは不可能であった。彼らは、神の完全な律法の要求を満たすことはできず、神に仕えると誓ってもむだであった。ただキリストを信じる信仰によってのみ、罪の許しが与えられ、神の律法に従う力を受けることができるのである。彼らが神に受け入れられようとするならば、自分の力にたよって救いを得ようとするのをやめ、約束の救い主の功績に全的に信頼しなければならぬ。」 (人類のあけぼの下巻 157)

3. 契約の批准

- a. モーセが呪いと祝福のすべての条件と共に律法を読んだ後、イスラエルはあくまでもどのように反応しましたか (出エジプト記 24:7)。

「奴隷制によって盲目にされ、低下した人々の心は、神の十戒の広範囲にわたる原則を十分に理解する準備ができていなかった。十戒の義務がより完全に理解され実行されるようにと、追加的な戒めが与えられ、戒めの規則を説明し適応した。十戒とは異なり、これらは個人的にモーセに伝えられ、モーセはそれらを人々に伝えた。」(クリスチャン教育の基礎 506)

「モーセが書いたのは十戒ではなく、神が彼らに守らせようとなされた裁きと、彼らがお方に従うことを条件とした約束であった。彼はこれを人々に読み上げ、そして彼らは主が言われたすべての言葉に従うことを誓った。モーセは彼らの厳粛な誓いを書物に書き、民のために神の御前に犠牲をささげた。『そして契約の書を取って、これを民に読み聞かせた。すると、彼らは答えて言った、「わたしたちは主が仰せられたことを皆、従順に行います」。そこでモーセはその血を取って、民に注ぎかけ、そして言った、「見よ、これは主がこれらのすべての言葉に基いて、あなたがたと結ばれる契約の血である」。』人々は主が言われたことをすべて行い、従順であるという厳粛な誓いを繰り返した。」(霊的賜物 1 巻 240)

- b. このような同意の真剣さを示すために、ただちに何が行われましたか (出エジプト記 24:6, 8)。

「こうして民はお方が言われたことをすべて行い、従順であるという主への厳粛な誓約を批准した。」(サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1880 年 5 月 6 日)

「ここで人々はこの契約の条件を受け入れた。彼らは神と厳粛な契約を結んだ。これは神とイエス・キリストを信じるすべての信者の間で交わされた契約の象徴であった。この条件は民の前にはっきりと提示された。彼らはこれらを誤解したままで取り残されることはなかった。与えられたすべての条件に同意するかどうかを決定するように求められたとき、彼らは全会衆が一致してすべての義務に従うことに同意したのであった。彼らはすでに神の戒めに従うことに同意していた。この律法の諸原則は今や個々に詳述されたが、それは彼らがこの律法に従うにはどれほどのことが関与しているかを知ることができるためであった。そして彼らは具体的に定義された律法の詳細を受け入れたのであった。」(原稿リ-ス 1 巻 114)

4. 失われた世代

- a. 神の助けがなければ、自分たちを救い、律法を完全に守ることは不可能だということを理解するのに失敗したために、イスラエル国民の大多数の者に何が起こりましたか (民数記 26:63-65)。

「わたしたちが自分でなし得ることは、罪で汚れている。」(キリストの実物教訓 291)

「ニコデモは、バプテスマのヨハネが悔い改めとバプテスマについて説き、聖霊をもってバプテスマを授けられるおかたを人々にさし示すのを見聞きしていた。彼自身も、ユダヤ人の間に霊性が欠けており、彼らが頑迷さと世俗の野心に大いに支配されていることを感じていた。彼はメシヤが来臨される時、物事の状態がもっとよくなるようにと望んでいた。しかしバプテスマのヨハネの鋭いメッセージは、彼の心のうちに罪の自覚を起さなかった。彼は厳格なパリサイ人で、自分の善行を誇っていた。彼は、慈善心と、宮の奉仕を維持するために惜しまず献金することによって世間から尊敬されていたので、神の恵みは確実であると思っていた。彼は天国が自分の現在の状態では見るできないほどきよいものであるという思いに驚かされた。」(各時代の希望上巻 200)

- b. 「古い」契約における問題は、神にありましたか、それとも民にありましたか (ヘブル 8:8)。

『生来のクリスチャン』!この欺瞞的な考えは多くの人々に自己義の衣としての役割を果たしてきた。そして多くの人々をキリストにあるいわゆる希望へと導いてきたのである。彼らにはこのお方の経験的知識、すなわち、このお方の経験、試練、自己否定と自己犠牲の生涯の経験的知識がない。彼らが非常に頼みとしている彼らの義はただの汚れた衣にすぎない。キリスト、愛された教師なるお方が言われる、『だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従ってきなさい。』しかり、良い評判を受けるときと同様、悪い評判を受けるときにも、このお方に従いなさい。最も困窮し、友のない人々の友となることによって、このお方に従いなさい。」(教会への証 2巻 177, 178)

「自分は富んでいる、豊かになったと感じる人々のみじめさ、裸は、何から成り立っているのだろうか。それは、キリストの義の欠乏である。彼ら自身の義のうちに、彼らは汚れた衣をまとった者として表されている。自分たちがそうした状態にありながら、彼らは自らキリストの義をもって覆われているとうぬぼれているのである。これ以上の欺瞞があるであろうか。預言者によって表されているように、彼らは、心が汚れた取引や不義の交易で満ちていながら、『これは主の神殿だ、わたしたちは主の神殿だ』と叫んでいるかもしれないのである(エレミヤ 7:4 参照)。」(この日を神と共に 228)

5. 必要とされているもう一つの契約

- a. 古い契約は非常に絶望的なので、旧約の時代に生きていた人々にとって希望を与えることができた唯一の約束は何でしたか（エレミヤ 31:31-33）。

「キリストを信じる信仰によって、律法のすべての原則に従うことが可能になる。

奴隷状態の精神は、自分自身の力で律法の要求を満たそうと奮闘することを通して、律法主義の宗教に従って生きようとすることによって生じる。我々がアブラハムの契約、すなわちイエス・キリストを信じる信仰による恵みの契約の下に来るときにのみ希望がある。アブラハムに伝えられた福音、それによって彼は希望を持ったのであるが、それと同じ福音が今日の我々に伝えられており、それによって我々は希望を持つのである。アブラハムは信仰の創始者また完成者であるイエスを見上げた。」(SDA バイブルコメンタリー [E・G・ホト・コメント] 6 巻 1077)

- b. これらの神聖な助けの約束を受け入れた聖書の英雄たちの名をあげなさい（ヘブル 11:4-32）。

「各時代にわたって、信仰の英雄たちは、彼らの神に対する忠誠が顕著であった。そして、彼らの光が闇の中にいる者たちに輝くようにと、彼らは世の前に目立つように連れて来られるのであった。ダニエルと彼の三人の友人たちは、クリスチャンの英雄的行為の傑出した例である。……バビロンの宮廷における彼らの経験から、わたしたちは心に完全な決意をもってご自分に仕える者たちのために神が何をなさるかを学ぶことができる。」(今日のわたしの生涯 68)

個人的な復習問題

1. 神聖な道徳律の真の意義を理解できなかったヘブル人と同じ経験を、わたしたちはどのようにたどりますか。
2. なぜ彼らは守ることのできない約束に容易に入ってしまったのですか。
3. 今日わたしたちはどのように神に対して同じような約束をするように簡単に導かれるのでしょうか。
4. イスラエルの歴史の残りの期間に何がくり返し起こり続けましたか。
5. 全国的な背教がわたしたちの信仰を揺らぐ言い訳にならないということを明らかにするどのような模範がありますか。

さあ、われわれは互に論じよう

暗唱聖句：「主は言われる、さあ、われわれは互に論じよう。たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。」(イザヤ 1:18)

「神の律法がこの(新しい)契約の基礎であった。律法は、単に、神のみこころに人々をもう一度調和させ、彼らが神の律法に従うことができるようにする手段であったに過ぎない。」(人類のあけぼの上巻 440 [強調付加])

推奨文献： 祝福の山 56-94

日曜日

3月19日

1. 二つの契約

- a. 神に義と認められるためには、わたしたちの側でどのような合意が必要ですか(詩篇 50:5)。
- b. そのような合意をするためには、どのような態度を持つべきですか(イザヤ 1:18)。
- c. どのような種類の契約の選択肢が、わたしたちに与えられていますか(ヘブル 8:6-13)。

『古い契約』の条件は、従って生きよということであった。『人がこれを行うことによって生きるものである』(エゼキエル書 20:11、レビ記 18:5 参照)、しかし、『この律法の言葉を守り行わない者はろわれる』(申命記 27:26)。『新しい契約』は、『さらにまさった約束』によるもので、罪のゆるしの約束と、心を新たにする神の恵みと、神の律法の原則に心を一致させる約束によるのである。『しかし、それらの日の後にわたしがイスラエルの家に立てる契約はこれである。すなわちわたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にする。……わたしは彼らの不義をゆるし、もはやその罪を思わない』(エレミヤ書 31:33、34)。(人類のあけぼの上巻 442 [筆者強調])

2. なぜ契約が必要なのか

- a. わたしたちの創造主との交わりのうちにいることから引き離すものは何ですか（イザヤ 59:2）。わたしたちは何に値しますか（創世記 2:17; ローマ 6:23）。

「アダムがサタンの誘惑に屈して、神がしてはならないと明確に言われたことをした瞬間、神の御子キリストが生きている者と死者の間に立って言われた、『刑罰をわたしに下してください、わたしが人の身代わりになります。彼にもう一度試験を与えてください』。罪は全世界を死刑宣告の下に置いた。しかし、天から次のように言う声が聞こえた。『わたしはすでにあがないしろを得た』。罪を知らなかったお方が墮落した人間のために罪とされた。『神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである』。キリストは王衣と王冠を脱ぎ捨て、そして全天の指揮権を放棄された。このお方はすべての弱さを負い、人類のすべての誘惑に耐えることができるように、ご自分の神性を人性で覆われた。このお方は悲しみの人で病を知っておられた。このお方はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれた。このお方は自ら懲らしめを受けてわれわれに平安を与え、その打たれた傷によってわれわれは癒されたのである。このお方はわれわれのために貧しくなられ、その貧しさによってわれわれが富むものとなるようにされた。このお方はわたしたちのために、祭司や役人たちによって狂気に駆り立てられた暴徒の侮辱とののしりを受けるために、天使たちの崇敬を後にされた。」(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1900年6月27日)

- b. 神はごく当初から、この死刑宣告を防ぐために、どのような備えをして下さいましたか（ヨブ 33:24; ヨハネ第一 4:19 も参照; 黙示録 13:8）。

「われわれをあがなう計画は、あとで考え出されたもの、すなわちアダムの墮落後に定められた計画ではなかった。それは、『長き世々にわたって、かくされていた奥義』のあらわれであった（ローマ 16:25）。それは永遠の昔から神の統治の根本となってきた原則のあらわれであった。初めから、神とキリストは、サタンの背信と、この反逆者の欺瞞的な力によって人類が墮落することを知っておられた。神は罪が存在するように定められたのではなく、その存在を予見し、その恐るべき危機に応ずる備えをされたのであった。世に対する神の愛はまことに大きかったので、神は、『み子を信じるものがひとりも滅びないで、永遠の命を得る』ために、そのひとり子を与えることを約束された（ヨハネ 3:16）。」（各時代の希望上巻 5）

3. 女のすえ

- a. 年を経たへび、悪魔が、エデンにおいてわたしたちの最初の両親を欺いたとき、神は人類に希望を与えるどのような約束をしてくださいましたか（創世記 3:15）。

「わたしたちの生来の傾向は神の聖霊によって正されない限り、その中に道徳的な死の種を持っている。わたしたちは神との生きたつながりをもたない限り、自己愛の罪深い影響、自己放縦、また罪への誘惑に抵抗することはできない。」（教会への証 8 卷 315, 316）

- b. どなたが女のすえですか（創世記 22:18; ガラテヤ 3:8, 16; ヘブル 2:14）。

「女のすえがへびのかしらを砕くということがエデンで宣告された時に最初の福音が説かれて以来、キリストは道、真理、生命としてかけられてきた。アダムが生存していたときに、またアベルがあがない主の血を象徴する殺された小羊の血を神にささげたときに、キリストは道であった。キリストは父祖たちと預言者たちが救われる道であった。キリストはわれわれが神に近づくことのできる唯一の道である。」（各時代の希望下巻 145）

- c. アブラハムが罪の許しのために信頼していたのはキリストに他なりませんでしたか（ガラテヤ 3:6-8）、そのような種類の信仰の結果は何でしたか（創世記 26:5）。

「十字架におけるキリストの死は、死の支配力を持つ者、罪の創始者の破滅を確かなものとした。サタンが滅ぼされると、悪に誘う者はいなくなり、贖罪は二度と繰り返される必要がない。そして神の宇宙において再び反逆が起きる危険性もなくなるのである。この暗黒の世において効果的に罪を抑制する唯一のものが、天国において罪を防止するものである。キリストの死の重要な意味が聖徒たちと御使たちとに理解される。墮落した人間は世の初めからほふられた小羊なくては神のパラダイスに住まいを持つことができなかつた。そうであるなら、我々はキリストの十字架を高めないのであろうか。天使たちはキリストに栄光と誉とを帰す。それは彼らでさえも神の御子の苦悩を仰ぐことによるのみ安全だからである。天の御使たちが背教から守られるのは十字架の効力を通してである。彼らも十字架による以外は、サタンが墮落する以前の天使たちと同様に悪に対して安全ではないのである。天使の完全は天においてまっとうされなかつた。人間の完全は至福の楽園エデンにおいて失敗に終わった。天国でも、地上においても安全であることを望む者はみな、神の小羊を仰ぎ見なければならない。」（SDA バイブルメンタリー [E・G・ホワイト・コメント] 5 卷 1132）

4. 契約の批准

- a. この契約はアダムと取り交わされ、アブラハムの時に更新されましたが、それはいつ批准され、一そのために、新しい、または第二の契約と呼ばれたのですか(ヘブル 9:16)。

「この契約はアダムと取りかわされ、また、アブラハムにくり返して与えられたとはいえ、キリストの死によって初めて批准されたのである。これは、初めて贖罪の知らせがかすかながら与えられたときから、神の約束によって存在していたのである。人々は、これを信仰によって受け入れていた。しかし、それがキリストによって批准されたときに、それは新しい契約と呼ばれた。」(人類のあけぼの上巻 440 [筆者強調])

- b. もしそれがイエスの死の時まで批准されていなかったのだとしたら、十字架前の天の王の子供たちにどのように適用されたのですか (ヘブル 6:13-18)。

「アブラハムに与えられた契約は、キリストの血によって批准され、『第二の』または、『新しい』契約と呼ばれている。それは、この契約に印を押す血が、第一の契約の血のあとに流されたからである。新しい契約が、アブラハムの時代に効力をもっていたことは、そのとき、神の約束と誓いによって保証されたことによって明らかである。『それは、偽ることのあり得ない神に立てられた二つの不変の事によって』である(ヘブル 6:18)。」(人類のあけぼの上巻 441)

「このお方の言葉は確かである。山は移り、丘は動いても、神のいつくしみはその民から移ることなく、平安を与える主の契約は動くことはない。『わたしは限りなき愛を持ってあなたを愛している』(エレミヤ 31:3)。『とこしえのいつくしみを持ってあなたをあわれむ』(イザヤ 54:8)と言われる主の声が聞こえる。これは何と驚くべき愛だろう。神は人間の恐れや弱さからくる疑いや疑念の原因を取り除くために身を低くされ、信仰によってご自分に差し出された震える手を取ってください。そして、主は掛け算による保証と安全を加えて、わたしたちが主により頼むのを助けて下さる。主はわたしたちの服従という条件を基にして拘束力のある契約を結び、わたしたちが自分の理解できる範囲にまで会いに来てくださる。わたしたちは、友人との誓いや約束を記録したとしても、担保が必要であると考えている。イエスはこういった特定の心配を取り除くために、誓いを持って主の約束を確かにされた。『神は約束のものを受け継ぐ人々に、ご計画の不変であることを、いつそうはつきり示そうと思われ、誓いによって保証されたのである』主の約束を信じるわたしたちの信仰を強めるために、主がなし得ることがこれ以上あるであろうか。』(彼を知るために 262)

5. 心の板

- a. 十字架におけるキリストの犠牲のゆえに、わたしたちはどのような機会を受けていますか (ヘブル 9:15)。
- b. わたしたちが神の御前に自らの責任を評価するとき、神はわたしたち各人にどのような訴えを個人的になさいますか (コリント第二 6:2)。

「石の板に刻まれたのと同じ律法が、聖霊によって心の板に書かれるのである。自分自身の義を確立させようと努力するかわりに、われわれは、キリストの義を受け入れる。キリストの血がわれわれの罪を贖うのである。キリストの服従が、われわれに代わって受け入れられる。こうして、聖霊によって新しくされた心は、『御霊の実』を結ぶのである。キリストの恵みによって、われわれは心に書かれた神の律法に従って生きるのである。キリストのみ霊を持っているから、彼が歩かれたように歩くのである。彼は預言者によって、ご自分のことを言われた。『わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります』(詩篇 40:8)。そして、彼がこの地上におられたときには、『わたしは、いつも神のみこころにかなうことをしているから、わたしをひとり置きざりになさることはない』と言われた(ヨハネ 8:29)。

使徒パウロは、新しい契約のもとにおける信仰と律法の関係を明らかに述べている。『このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。』『すると、信仰のゆえに、わたしたちは律法を無効にするのであるか。断じてそうではない。かえって、それによって律法を確立するのである。』『律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を』—人間は罪深い性質を持っているから、律法を守ることができない。だから律法は、人間を義とすることはできない—『神は……御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。これは律法の要求(律法の義：英語訳)が、肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされるためである』(ローマ 5:1,3:31,8:3,4)。(人類のあけぼの上巻 442,443〔筆者強調〕)

個人的な復習問題

1. 神と契約をすることにに関して、あなたはどのような経験をしましたか。
2. アダムが罪を犯したとき、なぜ神は用意ができておられたのでしょうか。
3. 来たるべきメシヤを絶えず思いにとどめておくために、神はどのような描写をお用いになりましたか。
4. アブラハムが新しい契約の下にいたということが、どのようにわかりますか。
5. あなたはどのような種類の契約、または同意を、自分の創造主と結ぶ用意ができていますか。

改革のために論じる

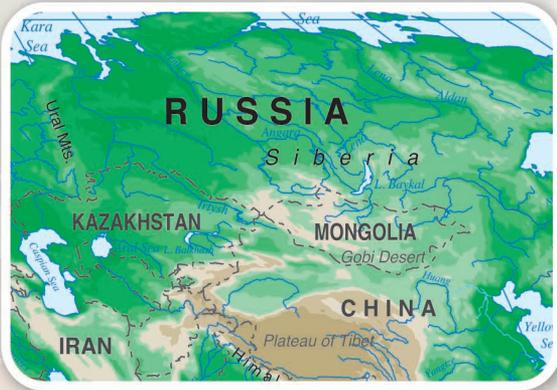
「イエスはわたしたちと同様にあらゆる点において誘惑された。それはこのお方が誘惑されている人々をどのように助けるかを知るためであった。このお方のご生涯がわたしたちの模範である。このお方はご自分の自発的な従順により、人は神の律法を守ることができること、また不法、すなわちそれに従わないことが、人をくびきにつなぐことをお示しになる。救い主は同情と愛に満ちておられる。このお方は、どれほど罪が大きくとも、真に悔い改める者を決して拒絶なさらない。しかし、このお方はいかなる種類の偽善をも厳しく非難される。このお方は不法の者を知っておられる。このお方は彼らのあらゆる行為をご存じであり、彼らの秘密の動機を読まれる。それでいながら、このお方は彼らがその悪のうちにあるまま背を向けられない。このお方は罪人に嘆願し、論じられる。そしてある意味において—ご自身人類の弱さを負うという意味において—このお方はご自分を罪人と同じ水準においてくださるのである。『主は言われる、さあ、われわれは互に論じよう。たとえあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。』

人、すなわち墮落した生活により、自分の魂のうちに神のみかたちを消してしまった人は、単なる人間の努力によって、自らのうちに根本的な変化をもたらすことができない。彼は福音の備えを受け入れなければならない。彼は神の律法への従順とイエス・キリストを信じる信仰を通して神へ和解させられなければならない。彼の生涯は、今後、新しい原則によって支配されなければならない。悔い改め、信仰、そして良いわざを通して、彼は義なる品性を完成し、キリストの功績を通して、神の子の特権をわがものと主張することができる。神聖な真理の諸原則は、心のうちに受け入れられ、大切にされるならば、到達できるとは思っていなかった道徳的な卓越の高さにまでわたしたちを連れて行く。…

ここに人のなすべき働きがある。彼は鏡、神の律法を見て、自分の道徳的品性のうちにある欠点を認識しなければならない。そして小羊の血の中で自分の品性の衣を洗って、自分の罪を取り除かなければならない。妬み、誇り、悪意、欺瞞、争い、犯罪はキリストの愛を受け、キリストのようになるという希望を抱いている心からきよめられなければならない。…

しかし、福音の希望という感化力は、罪人が神の律法の違反のうちに生き続けながら、キリストの救いを無償の恵みの問題だとみなすようには導かない。真理の光が罪人の思いにあらわれ始めると、彼は神のご要求を完全に理解し、自分の違反の範囲を悟る。そして彼は自分の方法を改革し、自分の救い主から得た力を通して神に忠誠をつくり、新しくより純潔な生活を送るのである。」(教会への証 4 巻 294, 295)

第一安息日献金



1月7日

ロシアの北カフカス、アディゲの
教育健康センター
(4 ページ参照)

2月4日

世界災害救済のために
(25 ページ参照)



3月4日

北インド連合、パタンコットの
礼拝堂のために
(46 ページ参照)